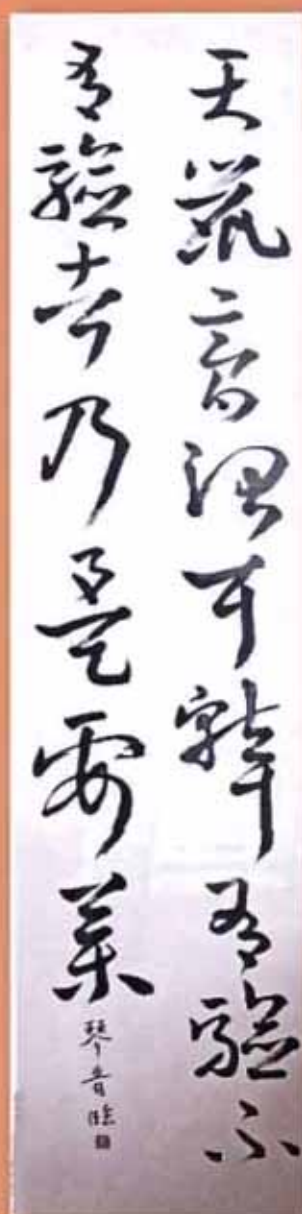


京三中・山城高同窓会 会誌

双ヶ丘



表紙の説明

「書聖」と仰がれて、日本の書にも多大な影響を与えた王羲之の『十七帖』を臨書しました。

草書のため「要」という字は手本だけでは分かりづらく、辞書を使い、確認しながら練習しました。流麗な趣きが出せるよう努力しました。

一年 鈴木 琴音

言 頭 卷

強い同窓会をつくりましょう

編集部 高林 藤樹

柱が1本あるとします。目印にはなるかも知れませんが、それ以上の働きは殆ど期待出来ません。

それでは2本ではどうでしょうか。2本あれば、その間に幕を張って隔壁をつくる事が出来ます。幕は物を隔てたり、区別したりできるので、1本の柱にくらべてその働きは格段に飛躍します。しかし、2本の柱では幕や壁は倒れるという心配があります。

次に柱を3本にすると、ここではじめて安定という状態が生まれます。不安定や中立に比べて安定は完成を意味します。あの巨大なスカイツリーも三角形から出来ています。

さて、物事には3という発想が大きい力を発揮します。よく言われるのは、真善美の3つです。また、知徳体とも言われます。組織にあつては3要素として名簿と会計報告と機関誌がこれにあたると思われます。今、我が同窓会は残念ながらこの3要素がしっかり機能していません。

昭和23年に学制改革が施行され、PTAという方法が輸入されました。PとTを両輪として学校を引っ張るというわけです。しかし、車は両輪があればうまく走るでしょうか。否、車軸があつてこそ成り立つのです。その車軸が同窓会ではないかというのが、私の言い分です。師の恩は山よりも高いと言います。又親の恩は

海よりも深いと言います。しかし、学校に於いては教職員や保護者が子どもに関わるのは何れも数年です。

これに対して先輩後輩の絆は永久です。遠い先輩が築かれた榮譽・名声を後代の我々は自分の誇りとし、又、鑑とします。そして消えることがありません。この縦のご縁を紡ぎ繋ぐのが同窓会ではないでしょうか。

各年度では同期の出会いをいつまでも温かい友情の輪として残そうと、懇親を深めています。もう一歩進んで学年の壁を越えた出会いを太い絆として強く持ちたいものです。後輩が意気盛んに燃えているときは大いに祝福し、拍手してやりましょう。しかし、逆に力弱く消沈しているならば、元氣よく奮い立つように応援してやろうではありませんか。我々自身が親心・兄心をもつと持たねばなりません。

ではどうしたら？ それは一人一人が熱い母校愛を持つことです。具体的に言えば、母校に心を寄せるとは即ち機関誌を読むことです。機関誌を読むことで冷めかけた郷愁もまた燃えてきます。さらには是非投稿してください。書くことで記事は増え、ページは賑やかになり、コミュニケーションが出来るようになります。

「応援団が勢いづけばチームも燃える」のではないのでしょうか。同窓会は母校の応援団です。声を大にして母校を応援しましょう。母校愛は膨らんでやがて祖国愛に繋がります。それから世界愛・人類愛となるでしょう。編集部から差し上げるハガキに是非お返事を下さい。お待ち申しあげています。

目 次

巻 頭 言	1
軍国主義の時代 三中ラグビー部、 京工専の反権力行動及びあの時代	三中・36回 高須壽一 3
浜村淳さんとの懐かしい日々	山城・5回 田崎 央 7
弔文 河崎和雄君	山城・5回 野村藤雄 8
地球温暖化防止と低炭素社会の構築	山城・12回 田中英樹 9
観光ガイド	山城・12回 吉田 茂 12
山城高校OB溜まり場「楽庵」バンザイ	山城・15回 岩田 勲 14
2014年近況	山城・15回 文字信男 14
黒部「下の廊下」を歩く	山城・18回 中尾四郎 15
「シェーレス・ジョー」の物語	山城・18回 伊藤植彦 17
真夏の高校野球観戦記	山城・18回 梅原健一 17
四国八十八カ所歩き遍路	山城・18回 松木利夫 18
キューバを旅して	山城・19回 中村美知子 26
ドイツ交流 2014年	山城・19回 中村美知子 27
ベトナム滞在記	山城・19回 牧野一郎 29
私がよく行く飲食店	山城・26回 関 啓次 30
至った又は至っていた若氣にいくつか	山城・44回 河合良平 31
明日に夢を！ 山城高校サッカー部	山城・52回 古山三樹夫 32
青春の記録 女子バスケット部	34
会員からのたより	36
各期・各会の報告	39
寄付者芳名	41
計 報	41
編集後記	41
『防人の詩』	42
学校だより	
「山城スピリット」	校 長 前島 巖 56
各部紹介	54
「やましろスクールライフ第2号」より	44

軍国主義時代 三中ラグビー部、京工専の反権力行動及びあの時代

三中・36回 高須 壽一

昭和12年7月に支那事変（当時、中国を支那と言っていた）が始まり、日本全体に軍国主義が始まり、昭和16年12月の大東亜戦争で更に強まった。

私は昭和15年三中学入学。2年の時、配属将校にS中尉が赴任し、彼は自分の権力を誇示するためか皆の頭を指揮刀の先で叩いたりし、彼の独断専行に悩まされた。いつのころからか、登下校時はゲートル着用。上級生に会った時は拳手の敬礼をさせられ、学校を兵舎のようにした。

天皇陛下の写真（御真影と称した）を入れた奉安殿が正門横に設けられ、登下校の際は拳手の礼をさせられ、戦地で死ぬ時は「天皇陛下萬歳」と叫び死ぬのだと言われ、天皇陛下を現人神（まにじん）と称した。戦後、昭和天皇は人間宣言された。

2年の時か3年の時か忘れたが、京都中等学校陸上競技大会が一中で開催され、各校と

も全員参加した。午前の競技が終り午後の1時半ごろより、各校15名がゲートル着用、背のう及び銃を担ぎマラソンのような長距離を走り、その時間の早いものが勝つという競技が始まった。三中からは体操教師の命令でラグビー部の上級生15人が走った。3時過ぎに、各校選手は帰ってくるも三中は姿を見せず、5時ごろ閉会の挨拶が始まり少しして、三中の選手が隊列を整え走り込んできた。我々は拍手で迎えた。私は知っている参加者に「今まで何をしていたのか」と聞いた。「陸上競技なのに教練みたいな事をさせられ、面白くないので、加茂の河原で背のうも銃も投げ出し昼寝をしていた」との事。これを聞き、理不尽な命令には従わないと決めた。

上級生への敬礼も、よく知っている人にはお互い手をあげ「やあ、やあ」と言いつれ違ったが、4年の時、5年生で我こそは軍国少年とばかり振る舞っている人がいたが、こういう人は大嫌いだった。ある日仲間と2人裏門へ向かって歩いていたら、前方より軍国少年ばりの5年生2人が来たので横を向いて通り過ぎようとしたら「待て。なぜ敬礼しないのか」と言い摸られた。S中尉に知れるとまずいので反抗しなかった。

上級学校は文科系志望だったが、4年の時、文科系は入営延期がなくなるとの事で理科系に切り替えた。8月には、5年から半田の中央航空への動員が決まり、都落ちしても4修で理科系へ行きたいと思い、高校は食糧もありそうと土佐を考えていたら、募集要項に試験地に京都があったので、ここを受験したいと担任の森永先生に話したら「君のような優秀な生徒が、なぜ三高の理科を受けないのか」と猛反対をされたが押し切って土佐受験を決めた。

私と同じ考えの人が多かったと見え、競争倍率が16倍と日本一になり、ために京都の人は岡山が受験地と変更された。なお三高理科は4倍で、駄目モト（駄目で元々）で三高にすべきだと思っても後悔先に立たずであった。私の土佐受験を聞き、同級生の母親が「うちの息子も受けますのでよろしく」と挨拶にこられたので「では一緒に行きませう」と言い、約束の時間に京都駅へ行ったら、母親もいて同行すると言う。私は試験の前は徹夜し終れば3、4時間寝て又徹夜の連続だが、母親同行でマイペースがくずされ、宿屋へ夜9時着で、さあ徹夜と思ったが母親に「明日試験やのに早く寝なさい」と阻止された。試験

当日、考え方がまとまらず、駄目だと観念した。

前年まで専門学校は5年卒でないと受験できなかったが、その年より4年で受験可となり、京都高等工芸学校の精密機械科（以下、精機）を受験と決めた。

この学校は元来工芸美術を教える所で、当時日本最古の専門学校で、図案、色染、機械、窯業の各科だったが、14年に精機と人造纖維科が、17年機械科が新設され、私の受験時19年に、図案科は建築科、人造纖維科は化学工業、機械科は紡織科と改造された。

精機科の競争倍率は9倍と最高で、機械が6倍、他はこれより低かった。

今回は自宅からのマイペースで受験でき、学科試験合格後の面接で「学生時代スポーツをやっていたか」の問いに「ボートとラグビー」と答えたら「はい、よろしい」で終り合格したと思った。合格発表日、合格を確認し、すぐに正門前の物産店で、黒の制服・制帽を買いに行ったら、衣類不足で制服はなく、制帽と、精機の英語 Precision Machine の頭文字 P と M を組み合わせた襟章を買い身につけた。なお機械科の襟章は M のみだった。

この年、三中から4年で上級学校へ約50名

が入学したので、今まで5組あったのが4組になった由。

4月の入学式当日分かった事は、全国の高等工業学校は工業専門学校に、高等商業学校は商業専門学校と改名され、さらに精機で入学した者は機械科と合併、精機の入学者は A・B 班へそれぞれ40名ずつ、機械は C・D 班へ40名ずつ、計160名の科となっていた。

入学式の校長挨拶で開口一番「今日より諸君を紳士として歓迎する」あ、俺は紳士だと自覚し、同じ組の者の写真撮影の後、5名で植物園へ行き、初めてのたばこに火を点けて吸い、皆むせて咳き込んだ。

校長の言ったとおり服装は自由で、他校は登下校ゲートル着用だが我々は不用、下駄履きで、市電高木町から松が崎の校舎まで小石をがらがら鳴らしながら歩いた。奉安殿があったかどうか忘れたが、それらや上級生への敬礼もなく、教練はあったが（後述）普段は軍事色もなく勉強一筋。

修学年数は3年から25年と短縮されていたが、学校側の方針で、先がどうなるか分からないので、1年間に2年間の勉強をすると決まり、夏休み、冬休み、春休みなし。休日は2週間目の日曜日のみ。朝8時より2時間

（教室移動・トイレの10分含む）単位で午後5時まで行われた。紙不足で教科書も9割方しか入手できなかったため、休憩時間は互いにノートを見せ合い書き込むの連続であった。

私はラグビー部に入部したので更に15時間ほど練習し帰宅するも、夜遅くまで勉強した。

校歌は「紫匂う比叡のみ山 麓流るる高野の川辺」とあるように、すぐ東は比叡山、西を見れば愛宕山、すぐ北に、五山の送り火の妙法の法が見えた。機械関係の授業は、機械科教室で受講するも、物理・数学などの一般学科は本館2階の教室が使われ、この窓から近くに比叡が見え、毎日色を変え神秘的で、ノートをとるのも忘れ見とれる事が多かった。

教練の配属将校は陸士出の陸軍大佐と高等工業出身の中尉2名、1名は歩兵、1名は砲兵で指揮官としていかに指揮するかを教えられた。少ししてから砲兵中尉は座学で、ある性能の大砲で何km先の敵に当てるには、射角を何度にするかを教わった。既に力学で物を斜め上に投げた時、その軌跡はどうなるか教わっていたので理解が早かった。

2週間目の日曜日の休日は、出町柳から京

大へ向かう今出川通りの両側にある古本屋を訪れ、欲しい本を探し回った。

学校側の子想どおり、上級生は6月より動員で出かける事となり、三中ラグビー部先輩で33回卒いもはう平野屋の北村氏が送別会をしてくれ、うまい料理とお酒をたらふく振る舞ってくれた。その後は私が主将となり部員を集め練習した。

試験は年2回だが、9月の前期の試験は一年分の問題ゆえ、及第点を取るのに汲々とした。

秋には京大教授で後にノーベル賞受賞の湯川秀樹氏の講演会があり、今と言う原子爆弾の話あり、マッチ箱の大きさの爆弾で戦艦一隻を沈められるとの事。戦後教授は平和委員会を作り原爆反対運動をされた。

物理の時間にはレーダーの話も聞き、日本では八木博士らが研究しているが、飛行機はレーダーで捕捉され特攻機の体当たりも、事前に捕捉され撃墜された由。

翌年昭和20年2月終りに我々にも動員令が出、もう少しで2年分の教科が終るのに、あわてて後期の試験があった。

三菱重工工業名古屋航空発動機が空襲にあい、京阪電鉄桂駅の近くに疎開し、神武第八

製作所と命名された大工場を作り、ここへ我々機械科160名が動員された。京大や三高の理科も来ていた。

入所式で奈良孝所長は「諸君の卒業時、全員当社で採用するから安心して業務に励んでくれ」と言われ、ここでも紳士的待遇された。初めの一か月間、午前は作っている航空エンジン火星25型の講義、午後は実習で、既に学校の工作実習で教わった金属表面の手仕上げをやらさせ、その後各人バラバラに機械加工、組立、試運転等へ配置され、それをマスターすると他の仕事へ変えられた。

私は初めにカム室の仮組み場へ配置され、カム室アルミ鋳物に開けられた14の孔に摺動する棒がうまく入るか調べ、入らない時は、摺動棒をベーパー等で仕上げ入るように加工した。この職場に、支那事変の開戦当時から兵役についていたが、熟練工ゆえ会社の要請で復員した作業員がおり、現地での状況、初めて進攻した土地での物資略奪、若者の殺りく、婦女暴行の話など聞き、話している本人も「ひどい事をしよる」と言っていた。

ここは海軍の指定工場ゆえ工作兵もいて、彼等に何の落ち目もないのに、下士官が彼らを柱に手をつかせ軍人精神注入棒と書かれた

棒で尻を3回叩いていた。復員作業員に「現地でも、あのような馬鹿な事をしているのか」と聞いたら、「弾は前からただでなく後ろからもくるぞ、と脅かしていたからあのような事はない」との事。また「戦死する時は、天皇陛下萬歳と言うのか」と聞いたら、「そんな人は一人もいない。いまはの際は、お母さんと言って死ぬ」との事。

3月9日に東京大空襲があり、翌10日の夕刻、工場を出て西を見ると大阪方面が真っ赤に染まっており、あ、早く降伏しないと大変な事になるぞと思った。京都は、ウオーナ博士（と記憶）が「奈良・京都は文化財が集まっているから空襲するな」と言われていたので、東山と太秦に間違つて爆弾一発ずつ落としたのみ。

8月6日新聞報道で「広島に新型爆弾が投下された」と知り、湯川教授の話で知っていたので、原子爆弾だと分かり、すぐ降伏しないと駄目と思った。9日に長崎にも投下され、15日に重大発表あるとの事なるも、ラジオの放送雑音で何を言っているのかわからず不明。

16日仕事に行き、友達も分らないと言っていたが、昼飯時、朝鮮からの徴用工が笑顔でいるのを見、日本は降伏したのだなあと思

した。17日の朝、校長が来て我々を集め「今から学校へ帰る」と言い、門番3人が阻止したが、校長は「戦争は終わったのだ。通せ」と言い、我々もどつと続いて門を出た。

帰校するや校長はグラランドの低い丘に昇り、「諸君、戦争は終わった。これから平和な時代がくる。日本再建のため一層勉強してくれ。今月一杯夏休みにする」と宣言。皆感激して帰宅。他校は終戦日より1週間後の動員解除令が出るまで勤務した由。この学校で、自主判断、自主独立、自主行動の大切さを学んだ。

9月の授業再開で、修学年数が2年半に短縮されていたのが3年に戻り、休日も昔に戻った。我々は実質2年分の教育が終っていたが、新しい教科が追加され、気の抜けない日々が続いた。

登校は市電北野白梅町より乗るが、家の近くに住むM君（第一工業卒で推薦入学）がラグビー部に入部しているので彼をフォワードリーダーとして副将にし、わら天神より乗るT君（一中卒）にマネージャーを依頼していたが、わら天神より乗車される三中22回卒で色染科の田中三郎助教授とも、いろいろな話をした。

3年の時、いよいよ他校との試合も始まる時期になり、田中助教授が「京高工のラグビー部先輩を多く知っているので、部の面倒を見ようか」と話あり、お願いすることにした。京高工ラグビー部は、昭和13年のセブンの大会に出場し決勝戦まで進み、京大と対戦して優勝している。先生の呼びかけで先輩達が暇を見て指導に来てくれ、対抗試合は勝つか引き分けた。

試合後や試合のない休日に、私やM君T君及び諸先輩が田中先生宅へ招かれ、3階建ての洋館へお邪魔し、トランプや麻雀を教えていただいた。

卒業試験もなんとか乗り越え、あの就職難の時期、卒業式の翌日より大阪の会社へ。1年後は京都の他社へ。昭和31年、現代の三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所へ入社、小牧工場品質管理課勤務となり、米軍戦闘機の修理等でも、米軍と対等に渡り合った。

昭和49年、全社の品質管理・品質保証を推進せよとの社長命令で、私がリーダーと成り本社技術本部生産技術部へ転勤。事なかれ主義の上役達を督促し、全社員への社長命令文を私が作り社長が命令し、多くの改善や新製品開発などで収益にも寄与した。

昭和57年、55歳退職時、重工の依頼で関連会社へ行き、重工嘱託業務で三菱重工技報の編集・発行業務を移管され、従来の問題点をクリアし発行業務を軌道に乗せ、この定年61歳なるも、もう1年いてくれの重工依頼で62歳まで勤めた。

平成元年、以前より何時でも来てくれと頼まれていた銀座八丁目にある日本鋳物協会（鋳物の学会。現、日本鋳造工業会）へ。こ、でも学会誌の発行がうまく行かなかったのを、すぐ改善し軌道に乗せた。平成5年、家庭の事情で退職するも、なお2年間週2日出社し、後輩の指導と鋳物用語事典（日刊工業新聞社発行）の編集責任者として完成させた。どこへ行っても Going My Way を貫いた。

関西を代表するタレント..

浜村淳さん（本名「塩浜真」君）

との懐かしい日々

山城・5回 田崎 央

人生の終末期？「傘寿」相当の永代供養のお墓のコーン・シヤルに始まった「浜村淳さん」ですが、山城高校5期生（そう全員満年齢で来年の盤寿を待つ身）の若き良き時代に、共に色々な思い出を作りました。

懐かしい体育館の2階、先生方数名のおられる部屋へ呼び込まれ、どの運動部にも属さなかったのに、3年間の体育の成績が全部5だったのは、お前だけだった！なんてやね？なんて言われて得意がっていた私メは、かなりの悪がきだった筈です。

2年生のくせに、くそまじめに立候補して当選し、生徒会長をやっている「塩浜君」と、悪がき私メが、何がきっかけだったのか、全く憶えていませんが、突然親しくなり、お母さんがお花とお茶の先生をしておられた彼の家にへたり込んで、遊んでいることが多かったものです。

当然 大学受験勉強なんて、二の次で、近

隣の若いオネーサンが集まるのが嬉しくて、お花と一緒に生けさせてもらったり、お正客に座らせて貰ったり、ハーレム風の楽しみだったのです。

彼「塩浜君」は、当時からタレント精神旺盛で、文芸部に所属して、中々味のある短編小説を書いたり、有名になった独特の喋りで、周辺を「西部劇崇拝者」に仕立て上げたり（私メも感化され、当時封切の全ての西部劇は初日に観てました）、大学では放送部に居て、大劇場で独特のカタリ口によりジャズコンの司会をしたりしていました（司会者へ差し入れ！というインチキで、私メも何回モグリをフリー通過したことか）。と言いながら、塩浜君と私メには、おほこいのか、悪なのかが、分からない仲間が多かったのです。

数名が、百貨店の売り子バイトと一緒にやって、その初日女の人ばかり何十人もの食堂で、ご飯が喉を通らなかつたり、四条通の屋台ラーメンを食べたら市電の金が無くなって、とほととは数キロを歩いて帰ったり、西院の腰掛店で、どぶろくのお代わりをするカネが無くなり、となりのニコヨンさん（懐かしいコトバ）に、どぶろくビール瓶一本を恵んで貰ったり：放縦な生活をしていました。

酷い遊びとしては、お正月、河原町の喫茶店をベース基地にして、ヨーイドンで、誰が一番美人を連れてくるかのナンパ大会を企んで、10名ほどの遊撃隊を繰り出したりしたものでした。なんと その時の偶然ナンパのカップルが、この数年前に金婚式まで上げて続いている！なんて、善行？？に転じたものもあったのです。

それらの「バカ所業」の中でも、特にとてもないものがありました。

大学に入って間もなく、私と小中高とも同窓だった「鈴木雄雄君」と言うのが、突然亡くなりました。

高校同期生で弔問に行こうと言うことになり、悪がき10名ほどでお通夜に行きました。ご遺族から、高校同級生の誰かが、翌朝の葬儀で弔辞を読んでくれないかとのご希望があり、皆で文章を考え、元生徒会長の塩浜君が読めばよい！みたいな暗黙の了解で、引き受けたものでした。

この時期には、既にそれぞれが違った大学生活を送っていたため、当然 集まったら酒。全員での弔辞づくりなど吹っ飛んでしまつて、全員朝までダウン。

読むべき弔辞は白紙のまま、午前の葬儀に

突入。

悪童全員が、固唾をのむ中で、塩浜君が祭壇に進み、白紙の弔辞を読み始めたのです。さすがタレントの卵。

順次開いていく紙のどこにも何も書いてないのだが、心のこもった素晴らしい弔意の語りに、参列された方々の多くが貰い泣きされたものです。

真後ろに居た私メは、笑い出さないように歯を食いしめるのが精一杯。

その見事な勸進帳に、悪がき全員が、塩浜君のタレント性を再認識した出来事でした。その後が、大困り。

私も良く知っているお母さんが、塩浜君に「懐へしまった弔辞を祭壇に供えてほしい」と仰ったのだが、お供えできる筈はない。仕方がないので、咄嗟に「一部に間違いがあったので、彼が書き直して後刻届けます」と、その場を（当然その後も）凌いだものでした。ご遺族が生きておられるかどうかは分かりませんが、60年も昔の時効話として、お許し願うことにします。

弔文 河崎和雄君

山城・5回 野村 藤雄

山城高校第五回卒業同期の河崎和雄君はこの数年前から闘病されていたが、昨年4月亡くなられた。彼との高校時代の思い出は尽きないが、特に古本についての話をしてみたい。当時、河崎君、U君と小生の3人はお互いに読書好きで、毎月25日の天神さんの古本市で本を探すのが愉しみであった。高校生のこづかいで買うのだからたいした事はないのだが、少なくとも、小生に限っては小説本、参考書は此処で買っていた。当時、古本市は北野天神宮正面、現在は西陣警察署がある所で開かれた。放課後出かけるのであるから探し終わるのは6・7時になってしまう。特に冬の頃は寒風の中、裸電球の下で探すことになる。3人は鳥居の所で待ち合わせ、収穫を見せ合った。今日のように、大きな書店に行けば目当ての本がすぐ手に入るのとは違って、どんな本が入手出来るのかも判らずそれだけに、得た物の喜びは大きい。

社会人になってからは、お互いの任地もかけ離れ疎遠にならざるをえなかった、半世紀

もたって、お互いにリタイアして、河崎君と小生は関東、U君は関西に居を構えていたのだが、一度3人で会う事となった。夕方、東京の新橋駅前待ち合わせた。その日、あの機関車の前の広場では、偶然、古本市が開かれていた、お互いに天神さんを思い出した。リタイアしてからは、お互いに中学、高校に同窓会にも努めて出席し、一献酌み交わし語りあうのが愉しみであった。彼が病気になるまでは、さすがに、京都の同窓会へは欠席が多くなった。私は同窓会の様子を報告したが、最後は決まって彼は一番の趣味であるカメラの話になった。今思うに、カメラや、オーディオ、など金のかかる趣味は、全て彼一人が先行体験し、教えて呉れた、しかし、当時私にはそんな余裕はない、話について行けるようになったのは、ずっと後のことである。昨年4月衣中の同窓会があったのだが、その頃亡くなられたのであった。少し遅れて死去の連絡をいただき、U君が上京して二人で弔問した。翌日、東京近郊散策しようと、新宿駅西口で待ち合わせたが、なんと、地下街のホールで古本市が開かれていた。不思議な因縁をかんじた。あの時はまた3人が揃っていたのであろう。

（合 掌）

地球温暖化防止と

低炭素社会の構築

山城・12回 田中 英樹

1. 地球温暖化への警鐘

2014年3月に、IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル) が温室効果ガスを50年までに40~70%削減する必要があると発表しました。もし、このまま大気中の二酸化炭素濃度が増えてゆくと今世紀末には海水

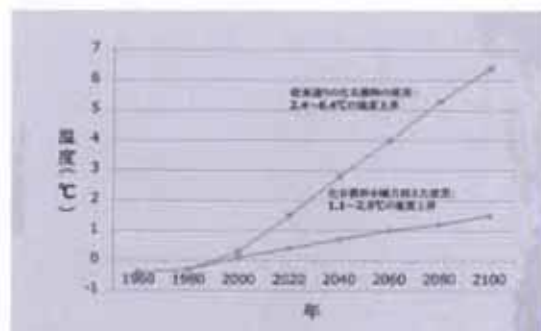


図1 地表温度の将来予測

面が最大82cm上昇し、気温が4.8~6.4℃上昇すると警鐘しています。

地球温暖化が進行すると「どの様なことが起こるか」の一例を紹介いたします。

ドイツの保険会社の調査では1960年代と最近の10年間を比較すると災害件数は2.3倍に、被害額は約7倍に増えていると発表しています。同様に、日本の気象庁が「日本の大災害は1945年~1954年の10年間で19件あったが、1995年~2004年の10年間で43件に急増している。」とホームページに記載しています。2005年8月の新聞紙面では「都市構造が生んだ熱帯夜」という見出し記事が載り、その年の夏には東京の平均気温は29.2℃でした。この気温は熱帯地域にあるフィリピンのマニラの最も暑い5月の平均気温29.4℃にはほぼ匹敵すると報道しています。

最近、日本の夏は各地で猛暑が続き、高齢者や子供たちが熱中症に罹る事例が急増しています。海外でも2003年の夏にフランスを始めヨーロッパ中部や西部で雨が降らず、しかも、40℃前後の気温が数日続きました。この異常気象により、15,000人近くの人々が熱中症で死亡しました。

2. 地球温暖化の原因

地球温暖化の進行には2つの要因があります。第一要因には、温室効果ガスの大気への排出です。温室効果ガスとは二酸化炭素、亜酸化窒素、メタン、フロンやオゾンなどが有りますが、大気中に排出される温室効果ガスは圧倒的に二酸化炭素が多いのです。二酸化炭素は石炭や石油のような化石燃料の燃焼によつて生成します。現在までに、日本や欧米先進国の経済成長時にエネルギーとして多量の化石燃料が使用されてきました。また、自動車の普及による燃料としてのガソリンも原料は石油です。また、最近では中国、インドやブラジルなどの新興国が急激な経済成長により石炭や石油を消費して、多量の二酸化炭素を大気中に排出しています。第二要因には、森林やマングローブ林の伐採、サンゴ礁の破壊や海洋汚染が有ります。樹木やサンゴは大気中の二酸化炭素を取り入れて組織形成を行っています。また、海水は、大気中の二酸化炭素の貴重な吸収媒体ですが、海洋汚染は二酸化炭素の吸収減退に繋がります。大気中の二酸化炭素濃度を上昇させています。大気中の二酸化炭素濃度の推移を図2に示しました。大気中の二酸化炭素濃度は、1960年頃

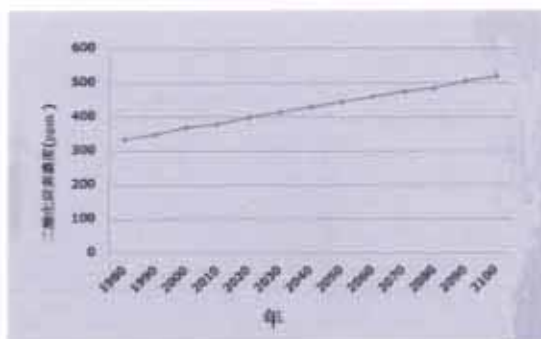


図2 大気中の二酸化炭素濃度の推移

には380 ppm程度でしたが、現在（2010年）では385 ppmになっています。今後さらに増加して2100年頃には500 ppmを超えることが予測されています。大気中に二酸化炭素がない場合には、地球の表面温度はマイナス19℃になり、二酸化炭素には温室効果があります。増え続けるとIPCCの指摘通り気温が過剰に上昇し、いわゆる地球温暖化が進行します。

3. 地球温暖化と自然災害

地球温暖化が進行すると、まず、台風、ハ

リケーン、竜巻など、また、集中豪雨や干ばつなどの自然災害の発生頻度が増加し、巨大化して行きます。最近の巨大災害例を挙げますと、2005年8月の米国、ルイジアナ州ニューオリンズ市を中心にハリケーン「カトリナ」が襲い、1,836人の死者、705人の行方不明者を出しました。また、日本でも、2013年10月の伊豆諸島に上陸した台風26号は最大風速45 m/secと記録的な強風と豪雨（24時間雨量・824 mm）をもたらした。この大雨を伴った台風による土石流は一つの村を飲み込み、死者36人、行方不明者3名を出しました。さらに、1月には観測史上最大規模の台風30号（ハイエン）はフィリピンのレイテ島を中心に上陸しました。この台風は瞬間最大風速が90 m/sec及びそれに誘引された5～6 mの高潮により死者2,360名以上、行方不明者77名以上、全半壊家屋数は約25万戸、避難者数は約150万人を出しています。いずれも、地球温暖化に基づく高温水塊の海洋貯熱量により高エネルギーを引き出したハリケーンや台風でした。巨大な自然災害が日本でも何時、何処を襲っても不思議ではない状況です。現在、巨大地震による津波対策が各地で講じられています。

すが、台風は毎年確実に日本に襲来するので、同時にその対策も講じる必要があります。特に、災害規模が次第に大きくなりつつあるため、各人が危機意識を持って日頃十分な備えをすることは非常に大切になると思われます。

4. 地球温暖化による水および食糧不足

森林は自然の貯水池なのです。木々の葉の表面から水を上空に蒸発させ、水は降雨となって再度地上に戻ってきます。従って、森林は貴重な水の循環系を作っているのです。森林が多く、降水量が豊富な日本では考えられないことですが、アフリカでは森林の伐採により降雨量が極端に少なくなり、生活用水の確保が困難になっている集落が多くあります。従って、それらの人々は、集落から遠く離れた河川や泉へ水を汲みに行かねばなりません。これらの水の多くは不純物や病原細菌に汚染されています。この水を飲用した体力のない幼児や子供たちは重篤な感染症に罹り毎日6,000人以上が死亡しています。現在（2010年）でも、世界で約12億人以上が安全な水供給を受けることができない状況です。さらに、地球温暖化が進むと2050年には世界で約40億人が水不足に陥ると推測

されています。また、東南アジアの集落でも生活用水は陶器の瓶に貯め置きしている雨水であり、その水を飲用や料理などに使用しています。

現時点（2012年）で、日本では少子高齢化により人口は減少傾向にありますが、世界では約65億人が生存しており、2100年には100億人近くに増加すると予測されています。大陸別人口増加の推移を図3に示しました。

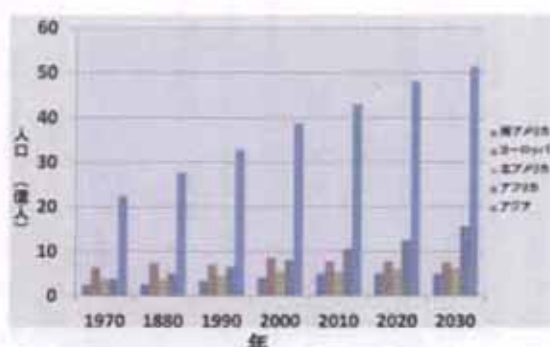


図3 大陸別人口の推移

今後、人口が増加する地域は、日本を除いたアジアとアフリカです。特に、アジアは中国

とインドなどの新興国で人口が急増する傾向にあります。一方、アフリカでは先進国からの医療、医薬品などの支援により幼児の死亡率が急減し、人口が増加する傾向を示しています。

人口が増加すると、水と共に絶対的に食糧が不足します。加えて、地球温暖化により干ばつや洪水によって農産物に被害が出ています。従って、食糧を増産しなければなりません。それには大規模の用地と大量の水が必要になります。しかし、穀物1kgを生産するのに平均1,000kl、コメ1kgを生産するのに4,500klの農業用水が必要になります。これらの農業用水は河川から取水していますが、河川水量が急速に激減しています。大量の農業用水の使用は、河川下流の工業用水や生活用水を逼迫した状況にしています。多くの家庭や工場は井戸により地下水を汲み上げて補っていますが、過剰汲み上げで地盤沈下が起っています。

一方、日本および欧米先進国における食糧自給率は、図4に示しました。欧米諸国の食糧自給率は、100%近くか100%以上ありますが、日本のそれは非常に低く40%前後であり、殆ど食料品は諸外国からの輸入に頼っ

ている状態です。特に、小麦やトウモロコシのような穀物類は、主としてオーストラリアから輸入していますが、2007年から2008年にかけてオーストラリアは干ばつが起り、穀物類の収穫に大被害がでました。

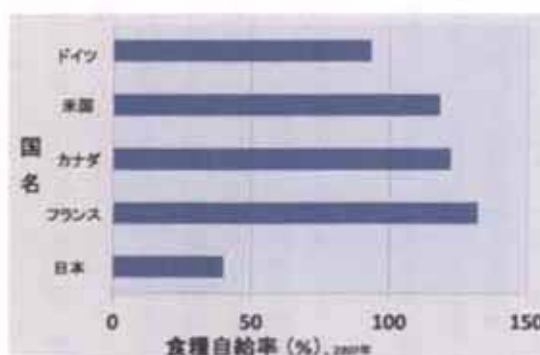


図4 日本と欧米先進国における食糧自給率の比較

このため、日本の食料品価格は軒並みに値上がりしました。人口が増加している中国では無理な農地拡張で大規模に山林を伐採しています。しかし、最近の中国は異常気象に見舞われ、2008年6月には豪雨による大洪水で広東省など東南地域に、2009年9月雲南省、四川省、貴州省など南西部で大干ばつ

が、また、2010年6月には豪雨による洪水で江西省、広東省、福建省などの穀物地帯で農作物が大被害を受けており、国内の食料品の不足が深刻化しています。これも、環境破壊が招いた結果と考えられます。

5. 地球温暖化防止への対処

各民族集団は言語、生活スタイル、習慣やものに対する価値観が非常に異なっています。そのため、人類の増加により民族間に軋轢が増えて行くことは明らかであり、さらに、地球環境の破壊や汚染を進め、生態系に悪影響をもたらすことも明らかです。これらを軽減するには先進諸国は、途上国に対して環境保全や教育などに関する技術支援や資金協力を行う必要があります。

一方で、地球温暖化現象は、人類にとって非常に大きな環境危機として捉える必要があります。これによる災害に対処するため、我々自身が出来る範囲で積極的に省エネ社会、すなわち、低炭素社会を構築することが重要になります。例えば、自家用車の不要な走行の自粛、公共交通機関の利用、また、近くは徒歩や自転車の活用、ゴミや生活排水の減量、不要品の不買、自然景観の整備や温暖化軽減

のための植栽、さらに、再生可能なエネルギーの活用などがあると思われます。一人ひとりの活動は小さくても、各自が現在の生活スタイルを転換し、無駄を排除することによって効果的な温室効果ガスの排出削減になります。人類と共生動植物が暮らせる地球環境の創造は非常に重要です。清浄な空気や水を備えた地球環境を次世代に引き継ぐことは現代人の重大な責務でもあることを十分に認識したいものです。

観光ガイド

山城・12回 吉田 茂

京都に生まれ育ちながら、余りにも京都を知らない。いつでも見学出来ると思っていたが、他府県から訪れる人の方が京都をよく知っている。今からでも遅くはないと思い毎年少しづつ神社仏閣を訪ねようとしている最中、入会しているシルバーセンターから、「修学旅行ガイド」の講習会参加募集の案内を受け取り、早速一週間の「観光ガイド講習」を受講した。「観光ガイド基礎概要」「ガイド実践講習」として、東寺・金閣寺・銀閣寺・

南禅寺・東西本願寺の講義を受講し最終日は、南禅寺周辺の実習ガイドである。実習ガイドは、受講者がひとりずつ割り当てられた南禅寺の境内をガイド実習する。私の担当は「法堂」であるが、人前でガイドをするのは初めてである。講習のレジュメをベースに自分の言葉で案内をする。後でこう案内すればよかったのにと振り返る。

修学旅行シーズンに入り5月下旬、静岡の中学校の観光ガイドの要請があった。中学生の5〜6名の班別グループを、中学生自ら立案したコースを市バスや地下鉄を利用して案内する。センターに行くと中学生自らが立案した観光コースの計画書が机に数十枚並べてあり、その中から希望する観光コースを選択する。

その中から一つの班の「精神世界」分野を選んだ。一週間前に希望したコースである「城南宮→上賀茂神社→松尾大社→天龍寺」の下調べをするため、中学生の計画したコースを実際に巡り時間配分をチェックした。

何故、この班は京都市内の外周を廻るハードな計画を立てたのか事前に各神社を巡り、その謎が解けた。【四神相応の京】京都の四つの守護神を巡るコースで、「上賀茂神社（玄

武)「松尾大社(白虎)」「城南宮(朱雀)」「八坂神社(蒼龍)」と平安京の四方を巡るツアーであるが、今回はその内の三社を参拝するコースであった。

いよいよ当日となり午前8時、京都駅近くのホテルで担当の班・男子生徒5名と出会う。京都駅からバスで南下し車窓から東寺の緑地を見たり、「鳥羽」バス停あたりを通過し、歴史で習った伏見鳥羽の戦いがこの地であったのであろうことを想像した。午前中は、城南宮と上賀茂神社を参拝し、午後は松尾大社を訪れた。中学生は事前に調べてきた松尾大社の「滝御前」を見学したいと言う。巫女さんにそれは何処にあるかを聞くと本殿裏の神山に靈験あらたかな滝があると言う。滝の清流に心打たれ、清水をペットボトルに入れて口を清めた。

松尾大社から嵐山の渡月橋まで桂川の河川敷を三十五分歩く。計画では二十分の予定であったが桂川の上流に向かつての徒歩はいい思い出になったと思う。

昔から渡月橋付近は河川が合流し水害が発生しやすい嵐が多いので「嵐山」の地名になったと地元の人が教えてくれた。天龍寺を拝観し京都駅行きのバスに乗り込み、午後5時前

にホテルに到着した。約九時間を中学生と共に過ごし、観光を無事終えることができた。明日の修学旅行の安全を祈ってひとり一人と握手を交わし別れを惜しんだ。充実した楽しい一日を終え若返った気持ちになった。

7月上旬、2回目の修学旅行ガイドは、埼玉県の中学生で、北野天満宮・金閣寺・竜安寺・三十三間堂・銀閣寺であった。このコースを選んだのは地元の北野天満宮を案内したかったからである。北野天満宮は、学問の神様・菅原道真公を祀る全国の宗紀の神社であるが、パンフレットに書かれたことは、中学生も事前に調べている。案内する時間も少ないので歩きながら楽しい案内に心掛けた。北野天満宮には、①なぜ牛が祀られているのか(牛は神の使い・菅原道真公は丑年生まれ)②臥し牛が多いのか、立った牛が二頭だけ祀られているのは何故か(本殿正面鈴の上)③【お土居】(史跡)豊臣秀吉は外敵の襲来から京の都を守るため土塁を造営、その史跡が今も残っている。④江戸時代、出雲の阿国(巫女)が北野天満宮の定舞台で女歌舞伎を演じ名声を上げ、その後、男歌舞伎の原型となった。(川端四郎の角に「出雲の阿国」の銅像がありその銘板に北野天満宮の記載がある)

る)

「修学旅行ガイド」を経験し改めて、歴史のある京都の魅力を知りたくなった。郵便局が発行する「郵便番号簿」には、全国の町の郵便番号が掲載されている。例えば東京の郵便番号が掲載されているページ数は、三頁なのに京都は十五頁にも及ぶ。京都に町名がなぜこれまでに多いのか。京都の町名は、朝廷・商工業・町の自治の三要素から成り立っており町名変更が行われることなく昔のまま存続する。「塩竈町」は嵯峨天皇の別荘「河原院」に奥州の塩竈のレプリカを造り「伊勢物語」等に「塩竈」の歌が多く詠まれ、その地が町名となった。

「鍛冶屋町」や「竹屋町」など職人の町名が数多く残っている。「晴明町」は安倍晴明神社の町名、「御幸町」は秀吉が必ず通る道、「突抜町」は秀吉が京都市街改造で開発された地が町名となった等々、町名が歴史を伝えている。京都三大祭の「葵祭」「祇園祭」「時代祭」を始め各町内の祭が町衆と共に歴史を伝えている。歴代の天皇の御陵が至るところで護られている。街角を歩くとさり気ない所に歴史を偲ばせる道標が数多く立っている。また歴史上の人物のゆかりの地が保存されている。

この他、なぜ京都には禅寺が多いのか、本願寺はなぜ東西に分かれたのか、十一年に及ぶ応仁の乱はなぜ起こったのか等、歴史の地を訪ねたり、満月や日の出・日の入り、桜や紅葉、四季折々の花の美しさをカメラにおさめるなど、関心のあるテーマをもとに、自分自身の観光コースを計画し、散策していきたい。

山城高校OB溜まり場

「楽庵」パンザイ

山城・15回 岩田 熱

15回卒業の岩田熱です。我々の同窓生の溜まり場は「楽庵」(上京区千本中立売下る西側)経営者は同窓生の中島道子さん(旧姓松居)です。休業日は日曜日と月曜日(ただし貸切りは交渉で開けてくれます)、食事ができお酒も飲み、ミニ同窓会もでき大変便利に使わせていただいています。最大30名ぐらひは予約すれば貸切りもできます。小生が所属している山城高校OB写真クラブの例会場所(毎月第三木曜日午後7時から)にも使わせていただいています。他にもサッカークラブ、テニスクラブ等も集まりに使っています。お値

段も交渉しだいです。我々は年に数回同窓生のミニ同窓会のようなことをしています。ここにあるから同窓生の絆が高まり情報等が発信出来ます。土曜日夜には必ず5人から6人は止まり木に停まり絆を深めています、皆さんが来られたら山城のOBと言っていただければすぐに打ち解け仲よくお話しが出来ることでしょう。今後も山城高校のOB仲間の皆さんと仲良くいつまでもおつきあい出来る事を希望します。

2014年近況

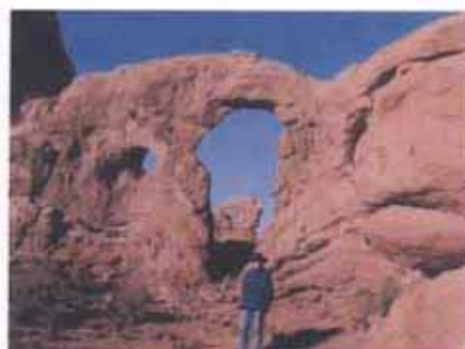
山城・15回 文字 信男

(USAシアトル在住)

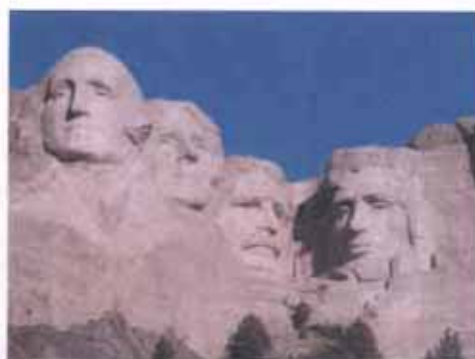
山城高校同窓会があつてから、もう1年余りたつ。あの時久し振りに同窓生のみんなに会えて本当にうれしく思っています。50年以上も会っていない級友もいたと思う。その後、都合により山城高校バスケットボール部の同窓会にはいけなかったが、9月に特別に細川先生を囲んでの同級生と先輩有志の集まりで楽庵に招待頂いた。山城のマネージャー時代に思い出しながら細川先生、それに皆さんと

話ができ、本当にうれしく思いました。皆さんに感謝しております。それにその時、先生の瑞宝中級章受章を知り、旧山城バスケットボール部員として誇りに思っています。それに先生が思ったよりお元気そうだったのでその方でも安心しました。(多分昔のマネージャーのくせが出て来たのかも)。

2014年は自分でのターニングポイントで、2月にやつとりタイヤした。アメリカに来て、大学院卒業以来40年近く一日として研究職(大学や製薬会社)を休んだ事がなく、少しは戸惑ったが、最近少し慣れて来た。今年のハイライトは妻と2人でアメリカ西部と中部(全部で14州)を車で4週間旅行(延4000マイル)した事だ。途中新たにアメリカ自然の広大さと美しさを痛感させられた。それに数々の国立公園や博物館などを訪れ、本当に勉強になった。蒸気機関車のなかった時代の西部開発は思ったよりシヴィアで沢山の犠牲者や土地紛争が限りなくあったようだ。そういう土台があつたからこそ今のアメリカが成り立っていると思う。今まで仕事と子育てに忙しかつた生活だけに、本当に意義のあつた旅行だった。写真2つをここに載せます。



ユタのアーチ国立公園にて。



マウント・ラッシュモアにて。(ワシントン、ジェファソン、ルーズベルト、リンカーン)

黒部「下の廊下」を歩く

山城・18回 中尾 四郎

小学校の木造校舎では「廊下は走るな」の注意書きをよく見かけた。富山県にある「黒部下の廊下」と呼ぶ山岳コースは走るところか歩き通すことすら命懸けで、北アルプス有数の難路だ。黒部第四ダムから黒部峡谷鉄道の樺平駅に至る暴れ川、黒部川に沿って断崖絶壁の山道を下るコース。旧日電歩道、水平歩道とも呼ばれ、冬季は世界でも指折りの悪



断崖絶壁を通る登山道

天候地帯で通行可能なのは10月の僅か1カ月程度。吉村昭の小説「高熱隧道」や映画「黒部の太陽」の舞台にもなり、黒部ダム建設時には多数の犠牲者を出している。

そんな難コースに挑んだのは、私を含め六〇歳代後半の男性四人。いずれも「俺が俺が」と自己顕示欲が旺盛で、「他人の足を引っ張る」ことが得意技の、好先輩とは無縁のヘルメットをかぶった「四匹のオッサン」たち。

秋たけなわの十月半ば、初日の宿泊地、黒部湖畔に佇む「ロジックろよん」へ向かう。道中のバス車窓からは、北アルプスの名峰、鹿島槍ヶ岳の雪をまとい始めた光景が印象的。翌日の早朝出発に備えアルコールもほとんどに早めの就寝。



志合谷の大滝



10月でも残る雪崩跡の雪境

ルの様相。今がピークの紅葉を愛でる余裕はなく、足下ばかりに神経を集中させる。黒部の三大岩壁の丸山東壁を見上げ、白

二日目は午前五時起床、六時出発。黒四ダム堰堤を渡りダム放水の落下地点が入口。歩き始めは道もなだらかで川床も近いが、最初の徒渉箇所の内蔵助谷合あたりからコースは核心部に入る。対向者とすれ違うのも困難な狭い栈道、急流の徒渉、デブリ（雪崩跡で雪が堆積したところ）の高巻き、スノーブリッジ、岩場の大ヘツリ、ハシゴ、つり橋に加えて、至るところで落石の恐れがある「何でもあり」のコース。躓いて転倒しようものなら奈落の底、黒部川の急流に呑み込まれ遺体すら見つからない、というスリリングなルートだ。道すがら遭難碑を何度も目にした。危険箇所には番線が張っており、手がかりに頼んで歩くが、恐怖心は拭えず足はガクブルの様相。

竜峡近くで昼食。剣沢と棒小屋沢が交差する十字峠を過ぎ、東谷のつり橋を渡り、仙人ダムに近い「高熱隧道」を抜け、今日の目的地の阿曾原温泉小屋到着は夕刻五時前。約二〇キロ、十一時間の行程。阿曾原温泉小屋では「混浴露天風呂」に大いなる妄想を抱いていたものの、疲労困憊で入浴する気力も失せてしまった。夕食のカレーライスとビールで猛烈な睡魔に襲われ、八時には床に付く（寄る年波には勝てません）。就寝中「崖から転落」の夢で何度もうなされた。

最終日も朝食を弁当で済ませ小屋を六時スタート。寝起きの登りに喘ぎながら水平歩道に入る。高所に対する恐怖感も二日目ともなると慣れてきたようだ。岩壁を穿って作られた「大太鼓」という地点は、道幅は五〇センチ程度で、足下は高度差二〇〇メートルはあろうか、という断崖絶壁の登山道だが、口笛を吹きながら歩く余裕も。天候は下り坂で雨も降ってきた。高度には慣れたが、落石の恐れはあり、転倒・転落は命取りとあって油断は禁物。ゴールの樺平駅舎が見え列車の汽笛も聞こえるが、そこから一時間も掛かり、正午にようやく樺平駅に到着。紅葉狩りの観光客も多数訪れている。長い緊張が続いたせい



黒部峡谷から見上げる紅葉と青空

もあり、平らで広い道を歩けることにホッとする。

樺平駅からは黒部峡谷鉄道のトロッコ列車に乗車。「下の廊下」はトロッコ列車も魅力の一つで、小雨に煙るなか、黒部川の清流と色づき始めた峡谷の移ろいを楽しむ。何よりも転落の心配がないのが嬉しい。終着駅の宇奈月温泉で汗を流し、JR乗り換えの魚津では列車待ちを利用して居酒屋へ。反省はしないが「反省会」が大好きな「四匹のオッサン」連、富山湾の新鮮な魚介と地酒を心行くまで楽しむことができた。唯一の反省点は混浴露天風呂に入りそびれたことのようなのだ。

「シューレス・ジョー」の物語

山城・18回 伊藤 領彦

アメリカ中部の中心都市シカゴからほど近いインディアナ州の田舎町にある道路での話です。そこは、さほど広くないにもかかわらず交通量が多い交差点だが、なぜかいつも靴が散乱している。私は不思議に思っ、その町の人にそのことを聞いたところ、何十年前か前の出来事を教えてくれた。それは酷寒の冬の夜、一人の少年・ジョーが歩いて帰宅途中に雪道に靴をとられてしまった。ジョーは必死で靴を探したが見つからず、片方を裸足で歩いて帰らなければならなくなった。ジョーが1時間近くかけて家に着いたころには、足はすでに冷え切ってひどい凍傷に罹っており、切断を余儀なくされた。そしてその話が地元紙のノースウエスト・インディアナ・タイムスに掲載されて話が拡がり、それ以来、誰ともなく彼が靴を無くした現場にそっと靴を置いていくようになったと言うことらしい。アメリカにもこんな心温まる話があるんだなど。意外に思った。のは私だけだろうか？



真夏の高校野球観戦記

山城・18回 梅原 健一

今年の夏の京都府大会には、昭和41年卒のわれわれ山城高校同級生は手分けしながら全5試合を応援・観戦しました。(野球部OBではありません)

メンバーは、青山直君、稲垣源一君、長谷川正博君、そして私の4名です。さらには大



学時代の親友の吉沢学君(浪商野球部OB)も、5試合のうち3試合も大阪から応援に来てくれた事を申し添えておきます。

タイトルの観戦記とはすこしおおげさです

が、真夏の野球応援は体力勝負です。しかも今年は予選のあった7月がほんとに猛暑でした。母校愛と高校野球の熱烈ファンであればこそ観戦記です。

わが母校の戦績は次の通りです。

2回戦(初戦) 7月16日(水) VS 桃山

○9-4(太陽が丘球場)

3回戦 7月18日(金) VS 南丹

○16-8(太陽が丘球場)

4回戦 7月21日(月) VS 峰山

○4-3(わかさ球場)

準々決勝 7月23日(水) VS 北稜

○9-3(わかさ球場)

準決勝

7月25日(金) VS 京都すばる

× 0-10 (わかさ球場)

準決勝進出は23年ぶりとのこと、……ひょっとしたら甲子園にいけるかも、と大いなる期待を抱いて仕事を休み西京極へ行くも、残念ながら0-10のスコア負け。

悔しいといっぱいの中、準決勝敗退の反省会を阪急西京極駅前のお好み焼屋さんでやっていたら、Kさんたちが入ってきました。(実は4回戦から3回連続同じ場所で反省会をしています)

私たちが山城高校の応援用うちわを持って



左が筆者です。

いたので山城OBと分かったようです。実はここから反省会がいつのまにか交流会、そのうち大宴会となっていました。

ほぼ同年代のKさんは、お孫さんが山城高校野球部員でその日出場したそうです。また息子さんも23年前のベスト4時代の野球部員だったとか、さらにご自宅が現監督の1さんのご近所(仏具屋さん)で監督の話題にまで話が広がっていました。

私の母が10年前に亡くなった時に仏壇を買い替えたのですが、その時お世話になったのがI監督さんのお店で大阪・吹田の自宅まで新しい仏壇を運んでいただきました。いろいろご縁もあるようです。またKさん宅は私が生まれ育った場所からは数百メートルの所の同じ仁和寺小学校区で北野中学校・山城高校と、当時の西陣の子が通る運ばれた道?を歩んだ仲間たち、等々たわいのない話をしながら、懐かしい子供時代の話まで多岐にわたり反省会は大いに盛り上がりしました。

そして来年度も野球部に残られるKさんのお孫さんたちの新チームが秋季大会やそれ以降のご活躍を祈念しつつ別れました。

山城高校の甲子園への道のりは、やはり遠いなあと改めて実感しましたが、見果てぬ夢

や楽しい時間をくれた後輩諸君に感謝の気持ちでいっぱいの真夏のわが母校観戦記でした。



四国八十八カ所歩き遍路

山城・18回 松本 利夫

私は平成二十四年十月三十一日に六十五歳でサラリーマンを定年退職したのを機に、一人で十一月四日から十二月二十一日まで四十八日間で四国八十八カ所の歩き遍路をしました。最近、四国遍路がテレビ等でよく取り上げられ、関心のある方も多いと思い本誌に投稿させていただきました。

四国遍路をするきっかけは、私の四国遍路出発の一年半程前に職場の先輩が一人で四国の歩き遍路の通し打ちを結願されたと聞いた事と、遍路出発の一年程前に青春十八切符で四国を廻っていた時に、高知県のJR窪川駅で電車の乗り換えの待ち時間が一時間程あり、近くの三十七番札所の岩本寺に行き四国遍路と宿坊のパンフレットを持ち帰った事で四国の歩き遍路に興味を持ち、退職したら自分もやってみようと思うようになった事です。先輩の歩き遍路の行程表をもらい、歩き遍路の様子を聞くうちに益々行きたくなりました。

私は六十二歳での富士山登山の下山時の下り坂で膝を痛め、日常生活には支障はありませんが山道の長い下り坂を歩くと膝が痛むため膝をかばいながらの四国遍路となりますが、退職四日目から出発し、一度も家に帰らず、一切の乗り物を使わずに最後まで歩き切った事は、人生の大きな財産となり、四国の皆さんの温かいお接待に接して、少し人生観が変わりました。以下に四国遍路の参考になりそうな事を書きます。

1. 札所を巡拝する事を「打つ」と言います。昔のお遍路さんは巡拝の時に木製や金属製

の札を大師堂や本堂の柱や長押に打ち付けた納札の習慣からきています。

2. 一番から八十八番へ順に巡拝する事を「順打ち」、逆に八十八番から回る事を「逆打ち」と言います。

3. 全区間を一遍に打ち上げるのを「通し打ち」、区切って打つのを「区切り打ち」と言い、八十八カ所を巡拝し終わる事を「結願」と言います。私は順打ちで通し打ちの歩き遍路を結願しました。

4. 私の歩き遍路は、初日と最終日を除く四十六日間は一平均で二十七キロ、万歩計で平均三万八千歩余りを歩き、四十八日間で一三五五キロ、万歩計で約百八十万歩の遍路旅でした。このペースは少しゆっくり目でして、通し打ちで平均的には四十三日程度、早い人は三十三日程度で歩かれるようです。私は退職前の十五年間は通勤で一日に七、十キロ程度を歩いていましたが、それでも数カ所ある遍路ところがし（お遍路さんところと言った所）では結構苦勞しました。十二番焼山寺（標高七〇〇m）、二十一番太龍寺（同四六〇m）、六十番横峰寺（同七四五m）、六十六番雲辺寺（同九〇〇m）あたりが難所です。雲辺寺下山

の四キロの下り坂では、膝が痛み、残りの行程が大変になりました（遍路の中断を考える場面もありましたが、何とかやり通しました）。

5. 歩き遍路で一番大事な物は靴と荷物の重量です。靴とリュックサックには少しお金をかけましょう。私はミズノ本店で歩き遍路をすると言って靴を選んでもらいました。荷物は軽い程良いのですが、必要な物を省く訳にはいきません。五キロ以内に抑えたいものです。私は七キロで出発し、肩が痛んだため七日目に二キロ分（セーターや傘等）を送り返しました。

6. 歩き遍路をするほとんどの人が持参している本があります。「へんろみち保存協力会」が出している「四国遍路ひとり歩き同行二人」の「解説編」と「地図編」です。「解説編」には遍路の準備、行程等の解説が、「地図編」には地図と宿泊施設が掲載されています。地図編は必ず持参しましょう。書店には置いていないので、郵便振替で送金すると一週間程で届きます。最近はいんターネットでも購入できます。

7. 歩き遍路が大変な方は車での遍路（十一日程度）やバスツアー（月に一回参加で一

年)もあります。歩き遍路のバスツアーもあります。荷物を持たず、納経(朱印帳)も添乗員が代行しますので楽ですが、自分のペースで歩けないので、歩き遍路は個人でする事をお勧めします。

8. 私は歩き遍路で体重が七十二キロから六十七キロに、体脂肪率が二十五%から十五%に減りました。今は体重が六十六キロで体脂肪率は二十%ぐらいです。

9. 私は退職後四日目の十一月四日から歩き遍路に出ましたが、気候(寒い)、昼の長さ(短い)を考えると、もつとよい時期の方が楽に歩けたと思います。十二月には休む遍路宿や宴会優先の旅館もありました。十二月には歩き遍路をする人も少なくなり、遍路仲間との交流が少なかったのが残念です。反面、宿泊者が少なく、前日か当日でも宿が取れました(あまり先の宿を予約しても行程が一日狂うと予約が全部無駄になります)。後半は宿泊客が私一人のことが多く、一人しか宿泊客が無くても泊めて頂ける宿のご好意が大変ありがたく、感謝感謝の毎日でした(私の四十七泊の内訳は、お寺の宿坊が六泊、遍路宿が二十四泊、ビジネスホテルが七泊、旅館が八泊、国民宿

舎が一泊、ユースホテルが一泊でした)。10. 歩き遍路に必要なことは、時間(お休み)、お金(一日一万円が目安)、体力・気力です。中でも気力が一番大事だと思います。「区切り打ち」でよいので、「順打ち」「逆打ち」は道しるべが少なく、初めての人には大変です。で始めてみませんか。四国の皆さんの温かいお接待に接し、人生観が変わるかもしれませんよ。私は遍路後に、週に三日半の清掃主体のマンション管理人を始めましたが、サラリーマン(銀行勤務)だった私には、四国の歩き遍路を経験していなければ、マンション管理人は勤まっていなかったかもしれません。

11. 私の四十八日間の遍路日記の一部を次に掲載します。皆様のご参考になれば幸いです。

遍路日記抜粋

平成二十四年十一月四日(第一日目)

八時二十分自宅発。三ノ宮から十時の高速バスに乗り徳島駅着。JR板東駅十二時四十四分着。一番霊山寺門前の「一番街」にて遍路用品を購入。十四時前から一番の巡

拝開始。巡拝作法等が分からず、とまどう。

人前で声を出してお経を読むのは、とても緊張した。一番を十四時三十分に出発、二番巡拝後宿坊着十六時。テレビが映らない。翌朝六時からの出勤に五時五十五分に行つた

ところ、ほぼ終わっていた。住職の子息(僧侶)が親切だった。

十一月三日の出勤準備中に風邪を引き、せきと鼻水が止まらな



一番 霊山寺

巡拝札所…一番霊山寺・二番極楽寺 万歩計歩数…三〇〇八歩 歩行距離…二・一キロ宿所…二番極楽寺宿坊

十一月五日(第二日目)

前夜は緊張で寝られなかった。まだ、二日目では遍路慣れのため、T先輩の日程にならぬスローペースで七番へ早めに到着。終日、小雨で歩き難かった。遍路で初めての洗濯をした。シティーホテル並の設備で満足。風邪が治らず風邪薬を買った。バスの団体遍路さ

んが泊まっております大変にぎやかだった。別に、老夫婦が先達さんのガイド付でタクシード回っていた。

巡拝札所…三番金泉寺…七番十楽寺 万歩計
歩数…三〇二四五歩 歩行距離…二十一・二
キロ 宿所…七番十楽寺宿坊

十一月十一日(第八日目)

今日は焼山寺に次いで厳しい遍路ころがしで、特に太龍寺手前の一・七キロの登りがきつかった。朝から雨で、太龍寺手前から雨が強くなり、特に太龍寺を出た十三時頃からは滝の様な豪雨で、遂に、十五時四十五分頃には風雨で歩けなくなり(道路が川の様になった)、宿の手前4キロ地点で雨宿りした。三十分待ったが天候は悪化する一方で、民宿山茶花に電話して車で迎えに来て貰った(明日はここまで戻っての遍路開始になる)。女将さんは今回の遍路で一番心遣いの出来る良い人だった。ビシヤビシヤの靴を靴の乾燥機で乾かし、部屋には水滴が垂れても大丈夫なように新聞紙を敷き、出発の際は携帯式の懐中電灯を頂いた(トンネルで大いに役立った)。カッパは着ていたがパンツまでビシヤビシヤだった。

巡拝札所…二十番鶴林寺…二十一番太龍寺
万歩計歩数…三五六〇三歩 歩行距離…
二十四・九キロ 宿所…民宿 山茶花

十一月十三日(第十日目)

今朝は薄暗い六時二十五分に出発し(今回の遍路で一番早い出発。素泊まりのビジネスホテルは朝食時間に縛られないので早く出られる)、足は快調でアップダウンも少ないので、番外の鯖大師を巡拝(納経)の上、十五時十五分に生本旅館に着いた。今日は海が見えた。感激した。板東から十日掛けて、よく、ここまで来られたなあと思っている。更に、今日は、一杯お接待を受け感激し、ありがたかった。十時過ぎに牟岐トンネルの手前の有人の遍路休憩所で、お茶、サツマイモ(蒸かしイモ)、柿、手製の紫芋羊羹、お菓子を頂き三十分ぐらい休憩した。次に鯖瀬付近で年配の女性からお遍路様と呼び止められ、鮎を頂いた。最後に、宿の手前の無人の遍路休憩所にオロナミンCが置いてあり、歩き遍路が勝手に飲めた(お札に納経札を置いてきた)。到着が早かったので、宿に荷物を預け、更に四キロ歩いて、旅館から迎えに来て貰った。明日はこの場所まで車で送って貰ってのス

タートだ。本来は、生本旅館から五・六キロ先の「はるる亭」まで行けたと思う(前夜同宿のTさんは、はるる亭まで行った)。結局、万歩計で四九一三五歩、三十四・四キロ歩き、今回の遍路で一番多く歩いた。生本旅館も凄い。洗濯、車での送迎はしてくれりし、料理が凄い。刺身、すき焼き、うに、蟹、海老、サザエの煮焼等食べきれないくらい。結局、全部頂いた。

巡拝札所…なし 万歩計歩数…四九一三五歩
歩行距離…三十四・四キロ 宿所…生本旅館

十一月十四日(第十一日目)

今日は前日迎えに来て貰った場所へ戻ってのスタートですと海が見えた。今日も巡拝は無く、ひたすら、室戸岬へ向かった。九時頃に高知県に入った。今までは、その日の



目的場所にとどり着くのに精一杯だった、昨日ぐらいか室戸岬から多少余裕

が出来、景色、お接待の有難味等、いろいろ感じられる様になった。よい修行の場を得た

と感謝している。海の景色が素晴らしく、特に朝日と夕日が綺麗だった。富山からと言う七十二歳の男性が後ろから追いついて来た。区切り打ちで六回結願している人で足が速く直ぐに追い越された。この人は午前中は一時間に五キロ、午後は四キロペースだそう。私は休憩時間を入れて午前中は一時間に四キロ、後半は三キロが精一杯（この人とは「おざき」、「うらしま」で同宿）。「おざき」には菅（直人）さんも泊まった（写真・色紙があった）。

巡拝札所…なし 万歩計歩数…四三四四〇歩
歩行距離…三十・四キロ 宿所…民宿 ロッ
ジおざき

十一月二十五日（第二十二日目）

今日は距離があるので、六時から朝食を取り、七時出発。最初の遍路道の入口を見落と



36番 青龍寺
朝青龍のトレーニング場所

し、五十六号線から遠回りをして四万十大橋に行った。四万十川の河口付近を見る事が出来、景色が素晴らしく、もつと四万十川の上流を見たい気持ちを抑えて先を急いだ。民宿「安宿」の主人は口が達者で、民宿「たかはま」からは三十五キロあるとのこと。遍路の本は距離を短く表示する傾向があり、遍路道はアップダウンがあり、時間が掛かるので、国道、県道主体で歩いた方が楽で早いとのこと。靴は実際の足のサイズより三サイズ大き目で、靴紐は上の二つの穴だけ結べば、足が楽で豆が出来ないと言っている。洗濯機は二槽式しかないが、洗濯は女将さんがやってくれた（これも主人の主義で二槽式の方が洗濯時間が早いとのこと）。私も靴紐を上二つの穴だけ通すようにしたら、足が楽になった。巡拝札所…なし 万歩計歩数…四七〇七〇歩
歩行距離…三十二・九キロ
宿所…民宿 安宿

十一月二十六日（第二十三日目）

朝七時に出発し十四時二十分に足摺岬の金剛福寺に到着。巡拝後、足摺岬を観光し、十六時に安宿の主人の紹介で民宿「はつと」に到着。明日は土佐清水経由で民宿「安宿」

に戻り打ちとなる。十一時三十分頃までは台風並みの風雨で、菅笠と金剛杖が強風で飛ばされ海に落ちそうになったが、お大師様のお力添えで間一髪、拾うことが出来た。菅笠に書いてある「同行二人」（一人で遍路をしている）は弘法大師が同行し見守って下さっている。は本当だと思った。強風で橋の通過と海岸の歩行は大変だった。「はつと」は運が良ければ鯖の刺身があるのだが、今日は悪天候で鯖が入らず、ハガツオのタタキだった。「たかはま」で同宿だったK氏と再度「はつと」で同宿になった。彼は私より三歳上（六十八歳）。「はつと」の評判を聞いていたので、もう少し先まで歩けたがここに泊まった由。今日は荷物のお金を宿に置いて来たが、それでも肩と背筋が痛む。毎日湿布を張っても効果無し。反対に足の豆は毎朝、時間を掛けて足の指にテーピング等をしているので大丈夫。膝も多少の違和感はあるが今のところは大丈夫。巡拝札所…三十八番金剛福寺 万歩計歩数…四一七七八歩 歩行距離…二十九・二キロ
宿所…民宿 はつと

十一月二十八日（第二十五日目）

今日は、ひたすら県道二十一号線を歩き、

民宿嶋屋に十五時四十分に着いた。荷物を置

いて三十九番延光寺に巡拝した。午前中は芳井休憩所でチオビタドリンク、菓子、みかんを頂いた。本格コーヒ、インスタントラーメンまで準備されていた。ご主人の芳井さんが出てこれ、十五分程お話をした。全て、自腹のお接待で宿泊も可能とのこと。二目に会った横浜の歩き遍路十六回目の七十代の男性も十日程前に寄って行かれたとのこと。彼は毎年、秋に来て、自分で彫刻した仏像等を置いて行かれる



馬龍本板桂

と。彼は毎年、秋に来て、自分で彫刻した仏像等を置いて行かれる

とか。昼食は安宿で頂いたおにぎりとおみかん

で済ませた。嶋屋で徳島のM氏と同宿となった。嶋屋で翌日の宿(民宿磯屋)を紹介して貰った。尚、延光寺の宿坊は今年からやっていない。

これで、阿波(徳島県)に続き土佐(高知県)も制覇した。ここまで約六百五十キロを歩き、よくここまで来られたなあ感慨深い。

巡拝札所…三十九番延光寺 万歩計歩数…四四九五歩 歩行距離…三十一・五キロ

宿所…民宿 嶋屋

十二月六日(第三十三日目)

今日は雪の降る中を六時四十分に出発。民宿の経営者夫婦が、私が見えなくなるまで三分ぐらい雪の降る中を玄関から見送って下さったことが忘れられない。ありがとうござ



寺の横雪

ざいました。雪が二センチぐらい積もり誰の足跡も無い薄暗い道を歩き標高七百mの三坂峠から遍路道に入り長い下り坂を膝をかばいなが

ら、ゆっくり歩いた。雪は七時頃に止み、松山市内に入ったら雪は無かったが風の強い寒い一日だった。四十六・五十番まで五カ寺を巡拝、薄暗くなった十七時十分に松山ユースホステルに着いた。寒いので近くの道後温泉本館(徒歩行き八分、帰り十二分)の温泉には行かなかった。ユースホステルは安くて料理もワインも良かったが、お風呂はユニットバスだった。

巡拝札所…四十六番浄瑠璃寺 五十番繁多寺 万歩計歩数…三七五四歩 歩行距離…二十六・三キロ 宿所…松山ユースホステル

十二月十三日(第四十日目)

今日はまた薄暗い六時三十分に出発し、二十九キロ先の六十五番三角寺に向かった。二十四キロを歩きT先輩が宿泊された付近を十三時三十分に通過。その後、四キロの山道を登り、三角寺には十五時四十五分に到着。

天気は良好だったが、標高が五百mのためお寺は雪が残っていた。本日の宿泊先はコースを外れた一野屋旅館。お寺は携帯が圏外で公衆電話も無かったので、宿まで四キロを歩いて行こうと思ったが十六時二十分頃に宿の主人が心配して車で迎えに出発した。三角寺から二キロ歩いたところで、タクシーが料金は

いらなから宿まで乗って行けと言ってくれたが、宿から迎えが来ると言って断った。この運転手が宿と親戚で宿に電話をしてくれ、その場所での宿の迎えを待った。宿に着いたのは十六時四十五分。今日は山道を入れての三十三キロで大変だった。この遍路で三番目に多く歩いたが、山道があったので実質、今日が一番よく歩いた。旅館の主人は良い人。

明日は宿の主人の紹介で雲辺寺から四キロ先の民宿青空屋を予約した。明日の六十六番雲辺寺は遍路中一番高い標高九百mの山で雪があるとのこと。特に寺の前後の道は凍結して

いるようで、無事に巡拝出来るかどうかは行つて見ないと分からない。今日で伊予(愛媛県)を完了し、残るは讃岐(香川県)の一五二キロ、二十三カ寺のみ。今日も客は私一人。

巡拝札所…六十五番三角寺 万歩計歩数…四七二六一步 歩行距離…三十三・一キロ 宿所…一野屋旅館

十二月十四日(第四十一日目)

今日は一野屋旅館の主人に三角寺まで車で送って貰い七時三十分にはスタートし十八キロ先の雲辺寺に向かった。途中、番外の椿堂(常福寺)を巡拝し(三角寺から出発の場合、時間が無いので次回は椿堂は巡拝を省略する)、T先輩が宿泊された民宿岡田の前を十一時三十分頃に通過して、雲辺寺には十四時二十五分に着いた。昼間の天候は良好。お寺を十四時五十分に出発。四・六キロ先の民宿青空屋に向かったが、四・三キロの道路道の長い下り坂で、上の方は雪もあり、一キロ下りた頃から、右膝が痛くなり、極めてゆっくり下りた。宿には十七時二十分に着いたが、十七時頃には山道の途中で暗くなり(道に猪が「みみず」を探して掘り起こした跡が一杯

あり早く下りないとまずい)、宿への到着の五分前からは強い雨が降り始め大変だった。雪は雲辺寺の登りの最後の一キロぐらいの車道にも有り、凍結していて滑って大変だった。お寺には八センチぐらいの積雪があり、これが大変だった。更に、お寺の五キロ手前から始まる長い登り坂の道路は今回の道路で一番きつかったし、下りの四・三キロも大変きつかった。膝のことを考えれば次回は雲辺寺を一番最後にした方がよい。結局、三年前に富士山で傷めた左膝をかねて歩いていたら、右膝が傷んでしまった。難所を通過出来てホッとした。明日は膝の状態と相談しながらゆっくり行く予定。膝が痛んだら区切り打ちに切り替えて、一旦、家に帰ることも検討しなければいけない。でも、折角ここまで来たので、何とか最後まで回りたい。宿の紹介で泊まった宿は、やはり良い宿だ。ご主人も奥さんも良い人。ご主人が心配して十七時頃に携帯に電話をくれた。ご主人は猪を撃つ猟師もしており、夕食はいのししのハンバーグを頂いた。今日も客は私一人。

巡拝札所…六十六番雲辺寺 万歩計歩数…三九七五二歩 歩行距離…二十八キロ 宿所…民宿 青空屋

十二月十九日(第四十六日目)

今日は六時四十分に出発した。八十三番を巡拝後、ひたすら高松市内へ向かった。今回の道路旅では一度も食堂で昼食をとっていなかったが(基本的には昼食は食べていない)、折角来た高松で讃岐うどんを食べないのはもったいないと思いセルフサービスのうどん屋で讃岐うどんを食べた。腰はあったが普通のうどんだった。栗林公園を観光している余裕はない。高松市街を通過して屋島の下まで着いた。ここから一気に屋島を登り屋島寺に行く。屋島は登りも下りもそれなりにきつかった。屋島から瀬戸内海を見る展望台があるが、暗くなるまでに八十五番八栗寺境内の宿まで行きたいので展望台には行けない。屋島を下りたところで雨が降り、結局、三十分程、雨宿りをした(狐の嫁入りで直ぐに止むと思いつた)。カッパを着ずに待った。屋島の下りは来た道を元に戻り遠回りをして(近道は下りが急で危ないと言いた)八栗寺に向かった。八栗寺の登り坂もケーブルカーの横の道で結構きつかった。岡田屋旅館は今日の午前中に電話をしたが、女将さんから、これから外出予定で帰りが十七時頃になるが、それでも良ければ泊めて頂けると言うことで、泊めて頂いた。

ご主人も女将さんもとっても良い人で「山茶花」に次ぐ気配りの宿だった。夕食はお鍋でおいしかった。ご主人が夕食後に写真を撮ってくれ、翌朝、写真を頂いた（宿泊客みんなにしている由）。今日も客は私一人だった。

巡拝札所…八十三番一宮寺・八十四番屋島寺 万歩計歩数…四四六八五歩 歩行距離…三十一・三キロ 宿所…岡田屋旅館

十二月二十日（第四十七日目）

今日は、朝から八十五番八栗寺を巡拝し、八十六、八十七番まで十三キロを歩き、巡拝後、十二時十五分に民宿がお路に着いた。荷物を預けて十二時三十分には大窪寺に向かい、途中、お遍路交流サロンで、千二百キロ歩いた証明書（四国八十八箇所遍路大使任命書）を頂いた。発行番号は今年七月から一一〇番であった。年間二五〇〇人ぐらいが歩き遍路（区切り打ちを含む）を結願するとのこと。八十八番大窪寺の四キロ手前まで歩き、十六時に多和小学校バス停からコミュニティバスで民宿がお路に戻った。明朝、車で八十八番の四キロ手前まで送ってもらい、多分、九時頃に結願する予定。今日も膝の負担を考えて、全て、車道を歩いた。大窪

寺手前の女体山の険しい遍路道は避けた。一旦、なお路に戻ったのは、大窪寺近くの旅館竹屋敷が宴会客優先で泊めてくれないことと、民宿八十窪が電話に出ない（老婆が一人でやっているの、十二月は休んでいるらしい）ためである。大窪寺の八十窪で泊まれたら今日中に結願していた。やはり、十二月中旬から二月の歩き遍路は避けるべきである。なお路の女将さんは厳しい人だった。息子が車で送迎してくれると言っているのに、八十八番の四キロ手前からの戻りはバスになり、朝の送りのも小学校の手前までと言われ、お願いして元の場所まで送ってもらった。五十台の女性が後から泊まり、久し振りに話し相手のある楽しい食事になった。八十七番の手前の道で、年配の女性に挨拶したところ、「結願、間近で良かったね。思い出が一杯出来たでしょう」と言われ、今までのことが思



足摺岬

い浮かび、涙がこみ上げて来た。大変、幸せな時間だった。

巡拝札所…八十五番八栗寺・八十七番長尾寺 万歩計歩数…四一一五二歩 歩行距離…二十八・八キロ 宿所…民宿 なお路

十二月二十一日（第四十八日目）

今日は、民宿の息子さんに八十八番の四キロ手前まで送ってもらい七時二十分に歩き始めた。いよいよ、あと一時間で大窪寺だと思うと、涙がほろほろ出て来る。八時十五分に大窪寺に到着。巡拝、納経を済ませ八時四十五分に無事に結願した。嫁さんに電話し、Ｔ先輩にメールで報告した。先輩からは直ぐに電話があり感謝の気持ちを伝えた。どちらの電話も涙声になった。全てが終わり、達成感で一杯になった。反面、これで歩き遍路が終わると思うと、淋しい気持ちにもなった。今まで、歩くことに精一杯で、四十八日間、歩くことだけを考える楽しい日々だった。長期間、こんなに一つのことだけに集中できる時間を持てたことは、一生の財産だと思う。十時のコミュニティバスまで少し時間があり、お土産を買って、茶店で生姜湯のお接待を頂き、バスを待っていると達成感と淋

しきで放心状態になった。バスの中で、応援
頂いた皆さんにメールをして、志度から高速
バスに乗って大阪へ向かった。夕方、自宅に
着いて、嫁さんの顔を見たら、また、涙がこ
み上げて来た。十一月四日から四十八日間、
一二五キロ、約百八十万歩の歩き遍路旅
だった。結局、渡し舟を含めて一切の乗り物
を利用しない歩き旅が出来た。雲辺寺で膝が
痛んだ時は、途中で帰ることも覚悟したが、
お大師さんのお陰で無事に結願出来た。「同
行二人」ありがとうございました。また、い
つか、今度は区切り打ちで歩き遍路をし
たい。取りあえず、背筋と膝の回復を優先して、
ゆっくりしたい（高野山奥の院へのお礼参り
は十二月二十三日に行く）。

巡拝札所：八十八番大窪寺 万歩計歩数：
七一五〇歩 歩行距離：五キロ



88番 大窪寺

キューバを旅して

山城・19回 中村美知子

ハバナの街を歩いているとなんとなく違和
感がある。アフリカ系の住民が多い。かつて
の征服者スペイン系の白人や明らかに混血の
整った顔立ちの人たちも見られる。女の子た
ちは思いつきおしゃれをしてその浅黒い肌
を美しく見せている。辻々から音楽が聞こえ
てくる。レストランやカフェーでのそれぞれ



ハバナ街並み

のグルーブの演
奏だ。ヘミン
グウェイが通
つたというカ
フェーにお客
がいつぱいで
通りに溢れる
ような演奏と
歌声に思わず
体が動き出し
そう。ノ

リのいいリズムに合わせて店の内外で踊っ
ている人もいる。1961年の外交断絶以来ア
メリカからの物資が途絶え、当時のままに生
活環境が凍結されている。時が止まったまま

のひなびた街並み
や通りにはあの年
代のアメ車の翼を
張ったような大き
いタクシーが走っ
ている。インフラ
は遅れているし建
物のメンテナン
スも充分でない。時
代に取り残された
ような雰囲気

が郷愁を誘う。

一般の居住地域を歩くと洗濯物を窓に満
帆に吊るして、人々は通りに椅子を持ち出し
おしゃべりをしたり、開け放たれた出入り
口の道に面した部屋から通り過ぎる人を見
ている。ほとん
どの人がTシャ
ツに半ズボンの
軽装。何するで
もなく歩いてい
る人やベンチに
座っている人。
賑やかな通りに
は朝から夜遅く
まで人がいっぱ



キューバの婦人



アメ車



英雄チェ・ゲバラ

国家的かなと妙に感心してしまう。スペイン人が入植以来、原住民は過酷な労働でほとんどが絶え、奴隷制度によってアフリカから強制的に移住させられ、労働



バンド演奏

だ食べ物や水を売って歩く人、路上では物売りが声を張り上げている。土産物といえはほとんどが手作りで素朴な仕上がり。機械化する技術がないと店員が言った。値段はどの店もほぼ同じで安売りはしない。売りたいという意欲が見られない。このあたりが社会主義

いい、先ずタクシーや観光バスや馬車からレストランの勧誘まで誰彼に声をかけている。不思議なことに彼らは商売仇ではなくみんな仲がよさそう。肩に担い

力として人間的な生き方を無視されてきたアフリカとラテンの混合からキューバが生まれた。しかしながらアフリカの産土の音楽は脈々と継承され新しい形で現在に受け継がれている。「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」でブレイクして以来世界の注目を浴びているキューバの音楽。カストロの革命によりチェ・ゲバラが世界的な英雄となった独立国家が生まれた。そしてパチカンのローマ教皇の仲介もあり2014年12月にオバマ大統領が国交回復宣言をした。今この世界から取り残されていた国は新しい息吹を吹き込まれようとしている。

ドイツ交流 2014年 姉妹校ギムナジウム・イン・ デン・フィルダーベンデン

山城・19回 中村美知子

ドイツからの山城高校訪問は今年で5回目を迎えた。隔年毎の訪問は、福島災害の年を次に見送ったことにより、通算10年を迎える。山城高校からドイツへは当初二度のドイツ訪問があった。隔年とは1年ごとにお互い

に訪問し合うということで始まった。最初はダイムラー社から「たけのこクラブ」という国際交流支援金が出ていたが、支援奨励金は2回までしか受けることが出来ずその後は資金不足のため日本からの訪問が途絶えていた。ドイツの高校は毎年秋休みの日程が変わり、山城高校の学校行事に合わせることでなくなり、10月3日の金曜日の午前到着、一夜を機内で過ごし、疲れたまま午後学校にて歓迎セレモニーが行われた。今回は来京から10日後が中間テストということで、月曜日の授業参加の日からいきなりホームステイとなり19人の生徒たちは授業が終わってから、全員が山城高校の生徒の家庭に一晩迎えられた。翌日は宿泊先の家庭から生徒たちが一緒に登校した。テスト前の一週間の授業の中で文化体験として書道、茶道、着付け及び体育や部活動参加などが組み込まれており、両校の生徒たちが話せる機会を多く設けられていた。テストの間ドイツの一行は尾道から瀬戸内海、宮島、別府と旅を予定してあったが、大型台風通過のため一日順延となった。台風を知らない欧州の人たちは実体験をして楽しんでいるようにも見えた。テストが終わった午後から両校の生徒たちは先ず金閣寺への散

策を始めとして、観光や友達交流をしていた。初めて外国の人達と話す機会を持った生徒たちも多くいてとても熱心に友好していた。そしてドイツへの関心を持ち、是非訪れてみたいと思う生徒が多かった。ドイツの生徒たちの日本語力は決して一般会話並みではないが、その分山城高校の生徒達が頑張って英語を話していた。

お別れセレモニーの時は山城高校の生徒代表が英語で送別の挨拶を述べ、ドイツの生徒たちは一人ひとりが感謝と別れの言葉を日本語や英語で述べた。お互いに感無量で長い時間をかけて別れを惜しんでいた。それぞれがメールアドレスの交換をしたりしてこれからもつながっていくよう最後の時を大切に話合っていた。実際過去において数人がドイツを訪れ、卒業生となっても交流の輪が広がっている。

今回の引率の先生は主催のザビーネ先生と、初回の交流の時に生徒として参加した経験があり、今はドイツで日本語を教えているザンドラ先生だ。ザビーネ先生はもともと紫式部日記を研究しておられて日本語に精通しておられる。ザンドラ先生の日本への興味のことだけは日本の漫画を読んだことからだそ

うだ。初回の交流後京都の龍谷大学で1年間日本語を学ばれた。

山城高校は国際交流推進高校の一つで、現在ノルウェイからの生徒が山城高校の制服を着て生徒たちと一緒に1年間学校で授業を受けている。昨年以前はアイスランド、ロシア、スイス、ドイツ、タイ、ブルネイ、コロンビアなど山城高校の生徒たちは異文化の同世

代の人たちに接触出来る環境にいる。毎年、文理総合科の生徒たちは研修旅行でマレーシアを訪れている。年間を通して中国や他の国々からの生徒の学校訪問もある。

山城高校はハイレベルな「文武両道」と共にグローバル社会で活躍できる人間を育成しているのです。



ドイツ国旗を持っているのが校長先生



ドイツ交流 セレモニー



ドイツ交流

ベトナム滞在記

山城・19回 牧野 一郎

ベトナム（ハノイ）在住5年目となる。最近は休日にトレッキングでベトナムや近辺の山へ行くことがあり、日本へ帰ることが少なくなった。最近ではネパールのエベレスト街道へ行った。

ベトナムの一般的な感想として

① 自動車は別としてオートバイが考えられないくらい多いので道路が大変混んでいる。オートバイが住民の足となっている。バス利用者も少ない。



ハノイの街中のオートバイ

② 歩道がバイクの駐車場となっていて料金を集める係りがある。また、数多くの露店が通行路の処々にあり美味しくはあるが非衛生的である。

③ 猛烈に暑い。ハノイには四季（春夏秋冬）があるというのは嘘。今、冬とは言え最低気温が22℃あり最高は30℃にもなっている（11月29日現在）。正しく言うなら雨季と乾季に分かれているだけ。

④ 伝統的な衣装はアオザイ。学校の制服もアオザイ。街頭での物売りも商店もホテルもみなアオザイ。アオザイは体の線が出て魅力的だ。アオザイを着た女性は美しく色っぽい。

ベトナムに住んで思うことは、弱肉強食の社会。彼らなりの歴史に基づいた生活をしていると自然にそうなるのだろうか、と理解するのだが、外の世界から見れば日本もそうなりつつある気がしている。彼らの風習から云えば、例えば道路に信号機がほとんどなく、あつたとしても、ベトナム人は守らず無視して横断する。勿論、早く渡れるので良い点も多いが、危険がいっぱい。加えて車、バイク、自転車も人が横断中も止まってくれない。強いものが勝ち、弱い者は控えろと言わんばかり。不可思議な国だ、ベトナムは。バスに乗れば直ぐに席を譲ってくれる。中国でも同じだったが、乗り込むときは整列しないで我先に乗

り込もうとする。習慣と云ってしまえば其の通りだが、スムーズさを考えれば整列した方が早く乗り込める。整列せずに乗り込むのと席を譲られるのとのギャップに驚かされる。

悪口をもう一つ。トイレが汚く、有料である。私は普段、統一公園（ハノイにある大きな公園）でランニングしているが、ベトナム人は平気で立ちションをする。近くに便所があるのに、どうして便所を使わないの？ 便所が汚いから？ 有料だから？

統一公園に入るのに金がかかる（20円）ので毎回払っていた。途中でランニングする人は無料だと知り、今は払っていないが長い間払い続けて損をした気持ちになっている。なぜランニングを続けていたかと言うと、「ハーロン湾マラソン」に参加したかったからだ。暑い中ランニングを続け、マラソンの完走を目指して練習したが、突然中止。「参加者が少なく実施出来ない」が公式発表。理由は何でもいい。中止の理由は色々あるのであろう。しかし私の払った金は今のところ返ってこない（\$220）。金はいい。ベトナム人を嫌いな人が嫌いだ。今の今まで悪いベトナム人に出会ったことが無い。皆親切で約束を守り、信じられない程正直だった。

例を一つ、私は旅が好きでぶらっと一人旅に出る。ベトナム語はチンブンカンブン。田舎に行けば英語が通じないにも拘らずド田舎に行く。ホテルを見つけ交渉するが、我がベトナム語は通じず、困っていたところ英語を話す客が入ってきて事なきを得る。「今夜食事に行こう」と誘われた。食事も終わり支払い段階になり、私が払おうとするとベトナム人は「貴方はゲストだから私が払う」と言ってきた。喧嘩するのもなんだから私が引き下がる。それだけではなく、翌朝、私をバス停まで連れて行って、運転手、車掌に私をハノイまで連れて行くよう交渉してくれた。昼食事、バスの運転手、車掌が私を呼び一緒に食べようと誘ってくれた。通じるようなベトナム語は話せず、何とか時間をつないだ。支払い時に又も貴方はゲストだから此処は私たちが払う、と再びご馳走になる。

このような例は枚挙に遑が無い。列車で移動中、泊まった田舎のホテルでどれだけ皆が親切にしてくれたことか。

ベトナム滞在が長くなって、思うに、一人暮らしをするのは、タフな精神力がいる。可能なら一人暮らしは止めた方がいい。最低家族が必要。信じられない程日本、故郷を思い



ハノイの娘さん

出す。気持ち落ち込んでるときに限って思いつく。

何でも食べられる、何処でも寝られる、何が来ても平気と云う強い意志も必要。さらに、自由があり過ぎれば困る。時間に追われ、もう少し休みたいくらいがいい。自由があり過ぎても落ち込む。ベトナムに比べれば日本は豊かで信じられないほど自由があり、日常生活も何ら問題がない。日本にだけいるとそれが当たり前となっていて、一度海外に出ると日本の良さを認識する。ベトナムにも良いところがあるぞと納得しながら次の日本への帰国を楽しみにしているこの頃です。

私がよく行く飲食店

山城・26回 関 啓次

59年生きてきて、一度も地元を離れたことがない私ですが、地元のことにはわりと詳しくと思います。今回、私がよく行く飲食店を紹介したいと思います。そこには偶然ですが

山城高校出身の人が勤めていたり経営したりしています。



江煙

まず最初に私の友人である今西伸夫君が勤めている五番町の焼肉「江煙」です。この店は、テレビ取材があるほどの有名店です。とにかく安くておいしいです。



ザー

次にこれも同級生の池山君が経営する府立体育館の東側にある創作料理の「ザー」です。この店の奥には座敷があつて同窓会等の宴会も出来、表の店は、おしゃれなバーになっています。3店は、一つ先輩の神谷喜信さんが経営している大將軍を東に行つた



かみ

ところにある「かみや」という和風居酒屋です。ここでは時々一つ上の先輩達が同窓会をされるのでなかなかいい人に会えたり、山城高校出身の後輩達も来る大変楽しいお店です。どの店も大変おもしろく、大変楽しい雰囲気なので是非一度、足を運んでみて下さい。

至った又は至っていた

若氣にいくつか

山城・44回 河合 良平

過去を振り返って思い出す事の多くは、どうにも恥ずかしいことが多く、乱暴にいうならその時の自分を殺したい、と思うほどの事もしばしばある。それが多いのが子供とも大人とも言にくい高校時代である。ただただアホだったとも言える。が、現時点でのその思いが正しいかどうかはわからない。というのも、高校時代を振り返ってアホだ、殺したい、と思っていた大学時代の行動もその数年後には「殺したい」対象に入っていたからである。人間、すぐに成長できるところとできないところがあるのかもしれない。そういう意味では丁度折り返しを過ぎた(平均寿命参考して)今でも、先が楽しみではある。

さて、ではそういうアホなことは起こるべきではなかったのかというところではない。むしろ、より見聞きし体験しておくべきだったと今は思う。そういう年に差し掛かったのか?とも思うが、これは、それだけではないように思う。その時に出来ることを十二分やっておく方が恐らくいい。今はもう出来ないうし、当時とは違う環境に身を置いているのが殆どだろう、一般的な大人というのは。

あの頃、アホなこと殺したいことといつて真っ先に思い出すのは自転車で前方に半回転してドンガラガッシャンシャンと吹っ飛んだこと。歩道、ただ真っ直ぐ走ればいい所で前輪を引っかけたままののだが、何にかという、何とベンチ。それは派手な音でコケた。細かく言うと、引っ掛かったのはベンチの足の接地面を大きくする丸い部分ではないかと思っている。思っている、というのは突然吹っ飛んだ後、自転車の前輪を見るとそこがスポークに絡んでいたのが見えたから。そんなバカなと思ったが、歩道の建物側にあるバス停のベンチに、真っ直ぐ走っていたのに半回転したのは紛れもない事実。しかし「バカなこと」の焦点はそこではない。なぜ、そ

うなったのか? というところで、それは恐らく、ベンチの反対、歩道の車道寄り、バス停そばのもう一つのベンチに以前に告白をしてられ、丁度一ヶ月程前のクラス替えで運良く一緒になってしまった女の子とその友達がいいたからである。それで、真っ直ぐ(のつもり)がその二人の後ろ付近で気づかぬうちに建物側に近づいて(避けて)しまつて、丁度道を挟んで彼女らの後方にあつたベンチの足を引っかけたという、半回転したというのが当時も今も変わらない見解である。ちなみにその後、やり場のない感情が胸をこみ上げ、家の車の前輪を思い切り蹴り上げた。多少、感情は収まったが、右足甲を少々負傷し翌日からのクラブ練習に支障を来したのはいうまでもない。

クラブといえば、まるで中身はないが印象深いことがある。ランニング時のあのかけ声は何だったのだろうか? 「チオイレッツチオ イデアーデアオイオイオイ」——最後のオイオイといくところはスポーツ部にありがちなかけ声でまだわかるが、前半部が未だによくわからない。特に疑問を持たず、毎日毎日大声で言っていたが結局何だったんだろう? 出来れば他クラブの部員に当時の感想を聞いて

てみたい。

訳のわからない言葉といえば定期戦。3年次、試合は勝利したがそれよりもその後の交流会。エール交換で相手方はもの凄く格好いい部歌と流暢な英語でのエールだった。ウチのエール、私の記憶では3回親指を上げながら「リ・ブレイ」と言っただけだったと思う。今だに何が正しかったのかわからない。歌はまあいいとしても、エールは相手の英語の分量とウチの「リ・ブレイ」×3のみでは明らかに釣り合わないし、そもそも言葉のやりとりとしておかしい。ざわっとした空気を残したままの交流会が印象的だった。他にもクラブはいろいろあったが紙面の都合上箇条書きで。

●ボールはバナナの皮以外で磨いてはダメだった。

●ブレイランドキング主将がいた。

●怪我しても走ったら治るといわれ事実治っていた(後でやっぱりケガしたのもいた)。

●同期のS君は試験監督の先生がいる前で堂々とカン〇ングを実行。注意されると「うるさい」といったような200%停学になるような受け答えをし、やはり停学になった。

●先輩のザンさんは山本だからザンさんだと思っていたが、本当はおニヤン子クラブの山本スーザン久美子のザンをとってザンさんだった。

学校生活でも、常に財布に200円程しかなく、となりやで50円のキスミントライチを買うかどうか休み時間ぎりぎりまで悩んだり、研修旅行の宿舎では、只でさえダサイトレーナーの上下withニヤケ面に加え、トレーナーの上をズボンにインするというこれ以上ないくらいのだささで、殺したい!と思うのだが、なぜがまだその写真はあつたり、購買部のおばさんが同じラグビー部の下君の母親だとわかると名字呼び捨て、もしくはババなどと呼ぶ部員がいたり(今の時世を考えると、あのおばちゃんは。受け。の上手い親御さんで助かっていたと思う) などなど非常にアホなことが次々と頭の引き出しから多少のデフォルメを加えて取り出されてくるなときりがない。

書き連ねたことを読み返しても、全くもってアホで下らないことばかりで呆れるが、ただ楽しくはある。人前で偉そうに言えることは殆どないが、あの頃の仲間うちで話す機会があるなら十分すぎる話のタネではないか。

まだまだアホなことは出てきそうだが、まあこの辺りで。最後に一つだけ。
ミルキーのクリームパンは僕にとってはまだ世界一だ。

明日に夢を!

山城高校サッカー部

山城・52回 古山三樹夫

私は、1997年に山城高校に入学して3年間を過ごし、そして昨年、2013年からは講師として再び山城高校で過ごし始めました。また、3年間御世話になったサッカー部の顧問・コーチとしても指導させていただ



ラグビー部

ています。

現在、サッカー部は部員約100名で活動しています。全国大会に出場するようなチームを見れば、それほど驚く部員数ではありませんが、山城高校の中では一番多い部員数になります。平日は授業が終わるとサッカーコート約半分のスペースに全部員が立ち、全国大会出場を夢見て活発に練習しています。

私がサッカー部に入部した当時、今よりもグラウンドの活動スペースはさらに狭く、2人組になってその場で対面パスをさせてもらえるのがやっとでした。しかし、そのような環境の中でもその年のインターハイと全国選手権大会の両方を経験することができました。全国4000校を超える出場校の中の京都府代表として出場し、全国の雰囲気を感じたことは本当に貴重な経験でした。どんな環境であれ可能性は無限大であると感じた瞬間でした。ただそれ以降、全国の舞台には立てていません。私を育ててくれた山城高校、山城高校サッカー部に恩返しするためにも、再び全国の切符を手に入れられるよう努めたいと考えています。

1957年から続く公式戦のユニフォームは左胸に縦書きで「山城」、紺赤白の縞のストッキング。これらは今も受け継がれています。このことは「今も守る強豪の伝統」というタイトルで、京都新聞の記事にいただきました。

私が小学生の時、山城高校サッカー部は国立競技場で国見高校と決勝戦を戦い、準優勝という結果を残しました。その時のメンバーに小学校からの先輩が活躍していました。その姿を見た時から、このユニフォームに惹かれていきました。

実際、私が公式戦ユニフォームを初めて手にした時は、鳥肌が立ったのを今でも覚えています。ユニフォームを手にした嬉しさ、ユニフォームに袖を通す責任感という重みを感じたのだと思います。とても思い出深いユニフォームです。

サッカーの世界は、人生や社会の縮図だと言われます。そのことは私も指導をする中で感じます。部活動ですから生徒たちの技術レベルの向上だけでなく、社会で活躍するための人間力の向上も出来るよう指導していきます。サッカーから離れても輝いていられ

るように。「明日に夢を」を胸に、私は山城高校、山城高校サッカー部と共に飛躍したいと思います。



2014年（平成26年）9月13日土曜日
京都新聞（夕刊）より



[上]「明日に夢を！」横断幕・団旗
[左下] 平成26年度インターハイ京都府予選
準々決勝（洛西浄化センター）

青春の記録 女子バスケット部

第六回西日本大会で優勝

前書き 平成二十六年（2014年）十月、小学校同窓会の会場となった西陣魚新を訪ねた際、大女将の寺田良子さん（旧姓武田・山城5回）から、昭和二十七年（1952年）一月に長崎市内の高校で開催された第六回西日本高校バスケットボール大会女子の部で山城高校女子バスケット・チームが優勝したことに触れた新聞記事（〇〇新聞昭和二十七年一月十五日発行）の切り抜きを預かりました。小森正巳先生（当時バスケット部の顧問）執筆の「西日本大会をふり返って」という題名の、この記事を読み進むうちに一度も観戦したことがないものにも優勝の感動と喜びが如実に伝わってきます。

当時高校二年生で女子バスケット部員として長崎にも遠征した寺田さんはこの記事を青春の記録として今日まで大切に保存しておられました。この貴重な記録が永く保存されることを期待して本誌に掲載します。

なお京三中・山城高創立百年記念誌に掲載されている「伝統のあるバスケットボール部」（三中35回・松村篤之介氏執筆）によれば、京三中バスケットボール部の創部は昭和四年のこと。昭和十二年三月、時の校長、藤森勝郎

先生の尽力により、当時の府立中学校としては破格の立派な体育館が竣工したとあります。さらに幸いなことにバスケットに情熱を燃やす小森正巳氏が、昭和十七年、この体育館が完備した京三中を選んで東京文理科大学（東京高師）より赴任されました。小森先生を顧問に迎えたバスケット部員はよく先生の期待に答えて昭和二十三年十月の第一回全国高校選手権で優勝を果しました。

戦後の学制改革により昭和二十三年、京三中は府立山城高等学校となり、同年十月には学区制による男女共学が始まりました。これに伴って昭和二十四年には女子バスケット部が正式に創設されています。

この女子チームもまた小森先生監督の下、昭和二十六年一月、鳥取で開催された第五回西日本大会に優勝しました。昭和二十七年の女子チームの優勝は西日本二連覇ということになり、前述の男子チーム全国制覇に次ぐ快挙と言えるでしょう。

最後になりましたが、当時女子バスケット部の主将を務められた野田輝子（旧姓平松）さんは平成二十六年九月五日早朝、肺疾患のためご逝去されました。ここに往年のご活躍を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（編集部代・乙部秋良記）



昭和27年1月第6回西日本大会（長崎）に参加したメンバー。前列は3年生、中列は2年生、後列は1年生。

左より

（敬称略 括弧内は旧姓）

前列 3年生（山城4回）河崎文子（故人）、田中（秋山）淳子、寺田（向井）恭子、野田（平松）輝子（故人）、大槻（井上）公子（故人）、尾崎（渡邊）明美、浅川（浅井）洋子。
中列 2年生（山城5回）森（永野）慎子、寺田（武田）良子、寺澤順子、松岡（小川）道子、多田（高岡）正枝、山下（木造）久子（故人）、吉田益子（故人）。
後列 1年生（山城6回）北脇（大塚）淑子、小谷

某新聞

昭和27年（1952年）1月15日火曜日

「西日本大会をふり返って」抄録

小森 正巳

去る一月五日より八日までの間長崎で西日本男女高校八十チームを集めて第六回の大会が行われた。参加人員約千人、入場式は実に華々しく行われた。新調の優勝旗を男子は東舞鶴、女子は山城の昨年の優勝チームを先頭に市警バスバンドの吹奏楽に大きなコートを埋めつくし、特に今年は東舞鶴が都合で棄権したので、山城の女子生徒平松主将が宣誓するという一寸バスケットの男女総合大会では見られない式であった。

さて男子の部をふりかえって見ると（中略）。

女子の部は優勝候補として山城堀川の対戦が予想されたのであるが、堀川にはピンチに際しての交替選手がなく、勝つべき試合を失って、山城に二連覇を譲ったのであろうが、堀川の敢闘は賞賛されて良い。

山城は二連覇を成しとげた、これは幸運も恵んでいたが、凡ゆる局面に対して持ち胸も豊富で、遅攻も速攻もそしてゾーンディフェ

ンスもマン・ツ・マンディフェンスも何でもベンチの意図をやりこなす力を持っていた、優勝することは調子のいい時許りの状態でゲームが進められないので、山城が最高の調子、堀川が最高の時の結果はそんなに差はないだろうが、山城は堀川よりゲームの運営に持ゴマが豊富な丈が有利であった。優勝して見れば順当な勝利と人を見るだろうが、今回の山城はスコアの上では楽勝でも、内容的には苦しかった、前半は二ゴール位のリードで何時も終わり最後の敵のあせりを待って一挙に十点は位はなすという試合運びであった。従ってどのスコアでも前半は苦戦、相手は一方的に食ひ下り戦法、これを受けて立つには中々の力が必要であった。結局チーム・バランスの良さが二連覇を成しとげさせた。（中略）

二連覇成る//の瞬間こそ文句なしの喜びと生徒に対する感謝の気持ちが錯綜して身体がしびれホホがひきつるような感激であった。しかし続けはげまし続け、苦しいトレーニングを繰り返しなおむくいられないチームもある。私達にはラッキーにも勝運が恵んだ選手にもそれにもまして年始年末なしの練習を許可して頂いた家庭の皆様にも少しでも

喜んで頂けると思うとなおうれしさがこみ上げてきた。山城のチームの各家庭は私と共に本当によく協力をして頂いて今の選手を作り上げてくださった。特にこの試合を最後に卒業する七人の三年生は三年半私と共に在り、喜び泣いた七人であるラッキー7ではないが、よくまとまった美しい心情の子供達であった。

山城も堀川も力は余り差がない。ただ山城には力のそろった交替の選手があり堀川は一人が欠けると力が落ちる差がある。優勝する為には多くの要素が凡ゆる局面に対して用意されていなければならない。山城は堀川に対して苦手ではあるが対策は用意されていた。

堀川には気の毒だが山城と決勝に当る前に敗退した事は山城にはラッキーであったのではないかと思う。

山城高校バスケット部監督

（注記）この新聞記事の掲載紙について、提供者の確かな記憶と記事の内容から、まず京都新聞社に確認のところ、当日の紙面には見当たらないとの返事でした。その他の新聞社でも今のところ未確認です。

（編集部代）

会員からのたより

三中・34回 東野 裕

会誌八号有り難うございます。寄附は少額で恐縮です。何時も素晴らしい編集に感謝申し上げます。次回から年一回刊行という。今後とも宜しくお願いします。

三中・36回 倉知 三夫

春は名のみの日々が続きますが「双ヶ丘」八号を余暇の楽しみに読んでいます。編集後記も拝読致しておりますが、編集子高林藤樹氏のご健康をお祈り申し上げます。当方それなりに馬蹄を重ねておりますが、遠い三中時代を懐かしく思っております。有り難うございました。

三中・37回 岩佐 義朗

季節が足踏みして春尚遠き感の日々でございます。この度は同窓会誌をお送り頂き有り難うございました。ただ誠に残念ながら岩佐義朗本人は二十五年三月二十日に永眠致しました。同期の木下幸三様、榊原胖夫様も他界

され、お二人とも生前大変お親しくさせて頂いておりましたので淋しい限りでございます。生前に賜りましたご厚情に感謝の意をこめましてささやかながら寄附をさせて頂きます。何卒お納めくださいませ。末筆ながら皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。かしこ

岩佐 優

三中・37回 田草川種賢

わが名

うせものはうせもののまま日短
雄炊や半田の町の食べもの屋
沖繩や食事処の隙間風
年の瀬の木立のさやぐ知覧かな
ザビエルもパウロもわが名老の春
京北へ向かへば京の風光る
西賀茂へ彼岸詣の霊源寺
初蝶や妻の故山の道あるく
英霊の墓に近づく梅の花
春山の京都が見えて懐かしむ
平らかにつらなる宇治や春の山
一木の家の紅梅咲き初むる

三中・38回 渡邊 稔

会誌「双ヶ丘」八号を拝見しました。ご立派な方々の投稿文を読んで感服した次第です。小生は、まだ不思議に寝込まずに元気にしております。でも足はヨタヨタ、目はショボショボ。それに、ツンボンボで物忘れも多い廃人の如き存在です。それで忤怩としたものがあります。とても皆様には伍してついていけません。しかし、高林藤樹君の記事「強い同窓会をつくりましょう」を読んで少し発憤しました。私には皆様のような賢い事はない出来ませんが、同窓生の一員として応援の旗振り（寄進）だけをさせてもらう気になりました。ほんの僅かですが、会誌編集の一助にしてください。役員さんや世話人さんのご尽力ご苦労には、感心して敬服するばかりです。どうぞ、今後ともお元気で頑張ってください。

敬具

三中・38回 大塚 樹

社会人野球で少々プレーをしただけなのに最近になり、脊柱管狭窄症で手術をし、また一昨年は人工股関節に置換しましたが、好きなゴルフも旅行も一時断念しましたが、二月に家族に誘われカンボジアに行ってきました。

ツアーは無理なので個人でガイドを頼りに、杖をついて広いお寺と石段を何とか歩いてきました。まだまだこれから何とかなると思いい頑張りつもりです。京都のお寺にも！！

三中・38回 折井 久彦

東北漁業の復興は「衰退の道に」戻るだけだ。

東日本大震災から昨日で丸3年が経過した。漁業の復興が一向に進まないのは、もともと衰退していたこの地方を、未曾有の地震と津波が襲って壊滅的な被害を蒙ったからである。漁業で栄えた東北地方も1980年代1280万トンの漁業生産量をピークに下降を続けた矢先に壊滅的被害を受け、3年ですと、480万トン程度までに回復したというのである。政府は復興の名の下に多額の補助金を予算に掲げて努めてきたが、3年間を振り返って一向に復興がともなっていない。むしろ若者は都会に出て、定着した者は、其のまま居座る傾向で、残っている人は60歳以上の高齢者ばかりで、更に大きな漁業衰退に遭遇している。

その現状は将に当時から言われた、「東北の漁業は若者の職業として魅力が無い」からである。従って、政府は復興復興と掛け声だ

けで、昔の衰退した状態に戻すだけしか考えて居ないのである。地元の漁師のアンケート調査でも30%が「漁師を廃業する」と回答している。水産庁の元課長で「海は誰のものか」の著者小松正之氏（国際東アジア研究センター客員主任研究員）の話では、ノルウェーでの漁業者は年収580万〜1000万円である。60歳以上の割合も10%程度で、漁師は若い人たちの職業になっている。

それに対し、日本の漁業は豊富な漁場に恵まれながら、日本の漁協の8割が本業の漁業では赤字、本業以外の収益で賄われている。そして、漁協は漁協で利権を守ろうとするだけで新しい改革の事など何も考えて居ない。本場の復興は、先ず漁協と言う昔からある権力構造を無くし、ノルウェー（外国から）の新技術を習得して漁業が若者の職業になり、魅力的な職業にする事が強く求められるのではないのでしょうか。

三中・38回 佐々木 成夫

双陵同窓会（京三中・山城高）会誌のご送付、誠にありがとうございます。毎号の内容を読ませていただき、昭和十九年〜二十年の思い出にふけております。半田。という地名

を聞く度に。乙川新池寮。山方工場。本工場の。衣ヶ浦。思い出すに暇が無いほどになつたし、時には苦しかった時分、よみがえってきます。「防人の詩」の記事と出がかさなり、その時の自分は「三中の生徒」の像として現れて来た感じが強くなります。八十五才になろうとしている現在、忘れ得ぬ過去の貴重な経緯として、今後の余生の中に生き続けていくものと思います。小生、お陰様で今のところ事なく、人生をおくっています。今後も価値ある余生をおくりたいと思います。前号でも紹介しましたように、保健面、人とのコミュニケーションをはかりつつ、がんばっています。ソフトテニス、カラオケサークルで日々を過ごしています。

三中・39回 四方 修

今年で八十四歳になる小生にとって、京三中五年間は僅かに六パーセントに過ぎませんが、「人間形成」としては計り知れない程（か）をいただきました。やんちゃ6、勉強4ぐらいの割合で過ごしましたが、小学校以来の「徳育」は知らず知らずの間に僕たちの背骨となったのでは無いかと思っています。校歌も応援歌も良かったですね。残念ながら昭和23年、山城高校になってからは驚くほど

に校風は変わりました。今日の日本の土台は3年足らずで造った占領政策のひどかったこと。今日の社会問題（親族殺し、ひきこもり、ストーカー、ミイイズムなど）は、その源をたどれば占領政策に行きつきます。そんな愚痴はさておいて頑張って前向きにこれから生きて行きます。

三中・39回 山田 安造

同窓会誌「双ヶ丘」八号をお送りいただきまして有り難うございます。懐かしう楽しく読ませていただいております。相変わらず能楽金剛流例会で頑張っております。次回双陵会には是非出席させていただきます。高林さん、伊藤さんの編集には大変感謝しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

三中・39回 吉川進三

会誌をお送り頂きまして有り難うございます。父吉川進三は2014年2月1日に永眠致しました。最後に一口だけですが、カンパさせて頂きました。

三中・40回/山城・2回 松尾 二郎

貧者の一灯、よろしく。京三中四〇回卒。現在八十三才。生きてこられてラッキーです。

山城・5回 前原 英彦

「OB諸兄に一言」

去る十二月十四日、九十才で濱島義博氏が死去されました。昭和六十二、三年頃の山城高校育友会会長の集まりのなかで、いつも話に出ていましたことを記します。三中・山城高の卒業生の中で、名士三人を挙げると、藤林益三（三中16回卒）、川島春夫（三中21回卒）、濱島義博（三中33回卒）の三氏との声が多かった。多くの立派な先輩を輩出した学校ですが、三中の卒業生の時代がこれで終わったのではないか、もう山城高校の卒業生の時代だと思ふ。我々後輩は一人一人が学校の伝統に誇りを持ち、各々が社会に出て、活躍をしようではないか。

山城・14回 二村 昭雄

会誌を送っていただきありがとうございます。

〔近況報告〕

◎仕事

住友ゴム関係の会社に常勤し、人工芝の営業に携わり全国を回っている。

◎結婚

平成18年に妻を癌で亡くしたが、平成25年に26才下の女性と結婚、充実した生活を

送っている。

◎サッカー

自分の作ったフットサルチームで月一回練習。

・年一回大阪柏原市にある児童養護施設でフットサル大会二村杯を行っている。今年で8回目。

・千葉市袖ヶ浦市で毎年3月の第一土日に、小学校四年生を対象にしたサッカー大会二村杯を行っている。今年で28回目。
今後も世の為、人の為に尽くして生きていきたい。



各期・各会の報告

◆6974会

山城・12回 西堀 孝三郎、永良 桑二
25年11月28日に「照月」で恒例の有志による親睦会を行いました。

ほぼ半年ぶりの再会で17名（男子14名・女子3名）が集まりました。

多くの者が教わった松井進平先生も元気なお顔を見せて下さいました。（先生は、84歳になられました）



もともと30年余りも前、数名で始めた年1

2回の飲み会でしたが、その後、参加者の輪が広がり「ろくでなし会」と称するようになりしました。しかし先生や女性も参加するようになりしたので、ゴロ合わせで「6974会」と表示しています。概ね半年毎に集い、

次回幹事2名を選んで運営しています。自由参加の開かれた親睦会です。（今回の幹事は西堀・永良）

（12回生の同窓会は、平成27年5月17日に開催が決まっています。）

◆関東山城組十八

新年会にお越しやす

山城・18回 中尾 四郎

「ようこそお越しやす」—懐かしい京言葉が交わされるなか、「関東山城組18」の新年会は一月四日、東京・銀座の料理屋「月の雫」で催され、十五人の仲間と再会した。

乾杯の音頭は宇多川隆会長。福井県の大学院に単身赴任中で数年ぶりの参加。富士市からは林義夫君が新幹線定期券を利用しての長距離参加。寺島竹夫君は上尾市で晴耕雨読の日々。とか。関谷春子さん、杉浦あや子さんは和服姿で写真で、華やかな新春の雰囲気醸し出す。総勢十五人が歓談に花を咲かせ、

創作豆腐料理と昼酒を楽しんだ。

今年は戦後七十年、阪神淡路大震災から二十年、そして私たち「関東山城組18」の仲間は山城卒業50年目の節目の年。京都本部の記念イベント企画

において期待を込めて、同窓会里帰りを願っています。



関東山城組18 新年会

以下は新年会参加者ご芳名。（旧姓、敬称略）

宇多川隆、吉田祐造、林 義夫、寺島竹夫
谷口昌男、前田幸一、高橋博道、中尾四郎
関谷春子、杉浦あや子、土屋悦子
中村清美、小倉寛子、高力道子、青山康子

◆少林寺拳法部

50年ぶりのOB会

山城・21回 中野 秀樹

われわれも64、65歳になるのだから、山城高校少林寺拳法部（同好会）に在籍したのは、もう半世紀前ということになるのか。円町に

ある達磨寺（京都別院）に週3、4回通い、体力作りや技の習得に励んだのはもう遠い昔のことだ。練習前にお寺の境内を清掃（これは、少林寺拳法の修行のひとつだ）、そして御室仁和寺までの素足のランニング。厳しさの中にも楽しい部活動だった。そうそう、夏休みの合宿（丹後半島・間人「タイザ」）は京都女子高など他校生もいて最高だった。だから久しぶりに会う部員同士は和気あいあい。あたたかも昨日も同じメンバーで飲んでいたかのよう。お互い60歳を過ぎればそれぞれの人生に区切りもつけ、着実な生活を送っているようだ。5年後くらいにまた招集しようかな？ いや、来年（来月？）も誰かが呼びかけるかもしれない。

そんな雰囲気、飲み会だった。



半世紀ぶりの再会

一さん・伊藤植彦さんにも参加していただいた。

（写真左前列右から澤田哲朗・刈谷・伊藤・福田隆夫、中列右から中野・人羅、後列右から蘭田・櫻井真・小石原義二・河村利通・井上利夫・白敷裕樹・三宅光二）

◆テニス部OB会

12月1日、山城高校テニスコートにて、毎年恒例のテニス部OB会を開催、30名が参加しました。

山城高校テニスコートはビル5階に相当する体育館屋上にあり、例年強風に悩まされますが、今年は師走にもかかわらず快晴、温暖に恵まれ絶好のコンディション。

山城4回卒のOBから最近の卒業生まで老若男女30名が、旧交を温めつつ、楽しい一日を過ごしました。出席者のなかには、今年の全日本45歳以上シングルス優勝者あり、立命館大、龍谷大それぞれの現役監督ありと、レベルの高いプレーの応酬に、実戦、観戦ともに有意義な一日でした。

◆テニス部OBの活躍

西村昌晃氏、全日本ベテランテニスで優勝
平成25年10月1日、名古屋の東山公

園テニスセンターで行われた「第75回全日本ベテランテニス選手権、男子45歳以上シングルス」において、山城高校36回（昭和59年）卒OBの西村昌晃氏が見事優勝されました。



◆陸上競技部創部一〇〇周年を迎えて

山城陸友会（山城高校陸上部OB・OG会）

山城・22回 理事長 藤井 幹世

山城高校陸上競技部は1914年に創部されたといわれている。その根拠は、当時の学友会資料に陸上部の名前があるということである。1914年に京都第三中学校の校地にグラウンドが作られたのであるが、その学友会資料に載っている陸上部の当時の先輩たちがそのグラウンドを走ったであろうことをもって創部としたのである。

山城陸友会の役員は月に1度、四条河原町のピヤホール「ミューン」に集まり交歓会をもっているが、その席で、創部一〇〇周年を祝い、このことを歴史に残そうと高林会長を中心に話しあってきた。そして、2014年11月14日土曜日に現役部員との交流記録会やサッカー、ソフトバレーの交流会を行い、記念式典を開催することになった。

山城陸上競技部は昭和29年から歴代の記録を残し、その記録を掲載している「雄飛録」というものがある。自分の記録を見つめ、少しでも上位の先輩に近づき、また、追い抜こうと切磋琢磨する記録集である。その「雄飛録」の最新号を発行し、また、この一〇〇年を歴史に残そうと岸野副会長の御尽力で「京

三中・山城高校陸上競技部一〇〇年史」を創刊した。

当日の交流会については、10代の現役部員と上は69歳から下は20代のOB・OG達とが真剣に戦いを挑んだ。もちろん足がもつれるOB・OGもいたが現役のころを思い出して楽しいひと時を現役部員と過ごした。

交流会終了後、山城高校近くの花園会館で山城高校前島校長、増田副校長、野々口陸上部顧問、森同窓会長、澤田元顧問、川村元顧問の御臨席のもと80名を超える記念式典、パーティーを行い、一〇〇年の歴史を祝った。

さて、一〇〇年の歴史の中で特筆すべき部員は、京三中、三段跳オリンピック選手の長谷川敬三先輩である。創刊された一〇〇年史には「長谷川敬三物語」としてその功績が描かれている。今は故人とされたが以前はOB・OG会にも顔を出していた。また、直近のOB・OGのこともこの一〇〇年史には掲載されている。箱根駅伝を走った山梨学院大学の森井勇磨君や3000m障害で活躍した早稲田大学の神内隆年君、そして、全日本女子大学駅伝で活躍した京都産業大学の深海奈々恵さんなど一〇〇年の歴史が織り込まれている。山城高校図書館に置いてあるのでぜひ見てほしい。

山城高校陸上競技部は二〇〇年、三〇〇年に向かってまた歩みだした。



一〇〇年史



記念祝賀会

寄付者芳名

芳名の数字は卒業期です。
●京三中、○山城高

⑫岩崎進⑫永良系二⑫大川原康夫⑫西村勇
⑪渡部隆夫⑪都築鳩枝⑪青山直⑪井上勝⑪
藤村恒雄⑪湖海信成⑪伊藤太一⑪河本充⑪
洞本昌男⑪神田敬一⑪杉本和子⑪松尾二郎
⑪橋本弘次⑪滝川明子⑪鶴飼忠男⑪三谷文
夫⑪八木福太郎⑪片野道子⑪前田幸一⑪村
端豊資⑪徳永良夫⑪木村文子⑪中村純三⑪
三好昭彦⑪沖靖彦⑪岩田勲⑪須田美智子⑪
福井和子⑪田中春美⑪小針俊伯⑪瀬尾渡⑪
金山政喜⑪岡田まゆみ⑪佐藤嶺子⑪平岩恵
子⑪山村泰彦⑪篠京子◆(旧職員)谷野二郎
⑪堀勝⑪浜野高子⑪井狩節⑪大島達也⑪横
田佳美⑪松井典喜⑪佐々木功⑪高須壽一⑪
真枝康子⑪船越滋⑪大前進・真理子⑪松木
利夫



計 報

芳名の数字は卒業期です。
●京三中、○山城高

⑫高岡 渉 平成21年3月
⑫吉川 進三 平成24年2月1日
⑫大槻 真也 平成24年6月12日
⑪山村 史郎 平成24年12月8日
⑪岩佐 義朗 平成25年3月20日
⑪岡本 正彦 平成25年3月22日
⑪野々村 晃 平成25年4月4日
⑪南北 弘司 平成25年5月11日
⑪久門 正雄 平成25年6月9日
⑪西村 隆 平成25年7月30日
⑪木下 幸三 平成25年10月3日
⑪①武用哲男 平成25年10月21日
⑪山脇 安孝 平成25年10月25日
⑪山内 和男 平成25年11月1日
⑪松浦 弘 平成25年11月19日
⑪濱島 義博 平成25年12月14日
⑪野口 忠彦 平成25年
⑪西村 幸雄 平成26年3月1日
⑪河崎 和雄 平成26年4月12日
⑪松越 滋 平成26年8月5日

編集後記

高須先輩には毎号健筆を振るって頂き、有り難う御座います。また、執筆頂いた各位にも厚く御礼申し上げます。本号は原稿が多岐に亘って賑やかになったことが特色かと思ひます。編集部の労苦は原稿依頼に終始します。が、会誌「双ヶ丘」はみんなのものです。みんなが書き、みんなが読む、そしてみんなが育てる。そんな「双ヶ丘」になって欲しいと思います。校長先生はじめ、各部の顧問の先生方、ご協力有り難う御座いました。編集部も次号からは、陣容を一変して頑張ります。

京三中・山城高同窓会会誌
「双ヶ丘」第9号(非売品)
2015年2月26日発行

発行人 会長 森 貞男
編集長 5回 高林 藤樹
次長 18回 伊藤 慎彦
会計 26回 松村多美男
会計 26回 岡野 直臣
編集 28回 中村 哲也

京都新聞社の御厚意により、平成八年六月に新聞紙上に連載されました「平田勤員の記録」を掲載させていただきます。

『防人の詩』

さきもり うた

(十六)

愛知県半田市の中島飛行機半田製作所に集団で動員されていた京都三中の生徒たちのなかで、濃淡の差をみせながらも「遠距離動員」への不満にも似た気持ちが伏流し始めたときに、同じような感情は他の遠距離動員をみていた学校にも現れていた。

京都市内の遠距離動員といえ、京都二商の生徒たちは舞鶴海軍工廠に集団動員されており、京都二中也兵庫県の伊丹近くの航空機生産工場での就労のため全員が寄宿舎生活の毎日が続けていた。これらの学校でも京都の自宅への帰宅日は極めて限られたものとなっており、連日の寮生活のなかで、やはり大小の事件が報告されてきていた。

これら生徒たちの多くが、毎日の生産現場での厳しい労働には、だれもが歯をくいしばって耐えていたが、作業が終わった後の夕食と就寝の時間はやはり、自宅でのくつろぎを求めている

ことに変わりはない。このことをめぐって九月上旬の新聞紙上に一本の記事が掲載された。

それは、地元紙の京都新聞の記事で、そこには「動員生徒 他府県出動者と家庭からの通勤者 望ましい交替制」という見出しがつけられていた。同記事は――

「動員以来、生徒たちが示した作業挺身への熱意と真しな作業態度は、すでに幾多の事例の有り体に物語るところである。彼らは若き生命と十分な教養の一切を生産活動に投げ出しているのである。しかしながら、これら出動生徒たちの中で家庭から通勤するものと、遠距離の他府県へ出動しているものとの間において、その健康管理や作業の労働量において大きな隔たりのある点に、父兄と保護者間にも再検討を望む声が強いのである」

「この最も著しい事例として国際航空（京都市内）に動員された府立一中と、愛知県下に出動している三中の労働の差は格段なもので、膨大な人員を収容している国際航空の受け入れ生徒は、生徒自身の口から「毎日とは比較の楽な仕事である」ことをもらしている」

「二中、三中の父兄ならずとも、こうした場合の生徒の健康のためには、家庭から通勤できる受け入れ工場に働く生徒と、遠隔の地に出動している生徒とは、先ず第一に健康管理の面からみても、ぜひ交代制をとり、受け入れ工場によって違う疲労度を公平にしたらとの説が強調されて

ている」

新聞の記事は、このように遠隔地派遣生徒の健康管理の問題に焦点を当てた内容となり、その対策として交替制を提言するものとなった。

もちろん、愛知県内の工場に派遣された生徒たちの寮内で、教師のいる職員室へ襲撃事件のあったことなど、一行もふれられていなかった。そのような事件の報道は、軍の厳しい報道管制下に置かれていた新聞にとって、検閲に伴う処置としての「削除」の二文字が待っているだけであった。

その代わりに、同一紙面には動員生徒や教師たちの美談が幾つも掲載されていた。そのなかには生産現場の教師の姿を「一人三役」との見出しの下に詳しく報じたり、また、生徒たちのなかにも仕事への習熟につれて「新人工員たち」に教える「動員生徒が先生」との見出しで、工場現場で懸命に頑張る姿を報じる記事なども見られた。

だが、動員先での生徒にとっては、やはり健康の維持が心痛のたねとなっていた。四年生の一生徒の日記には――

「本日は、朝から苦しかった。昨夜は二回も便所に行ったが、朝からは普通に仕事にかかった。午後にも穴あけとヤスリ作業をしていたが苦しくなり、級友が先生に通報のため走ってくれた。そして、級友二人がかわるがわる背負って帰ってくれた。ありがたかった。夜は重湯をすすって寝た」